

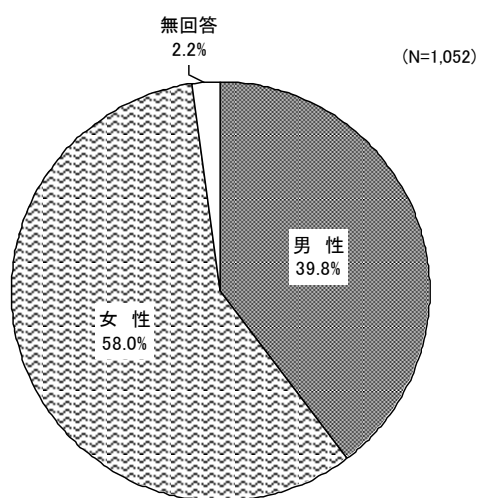
第1章 市民意識調査

1 基本属性

(1) 性別

回答者の性別は、「男性」が39.8%、「女性」が58.0%で、およそ4：6の割合である(図表1-1-1)。

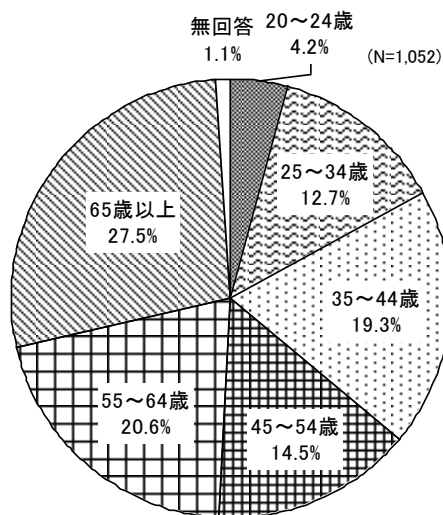
図表1-1-1 性別(全体)



(2) 年齢

年齢は、「65歳以上」が27.5%、「55～64歳」が20.6%、「35～44歳」が19.3%、「45～54歳」が14.5%、「25～34歳」が12.7%、「20～24歳」が4.2%となっている(図表1-1-2)。

図表1-1-2 年齢(全体)

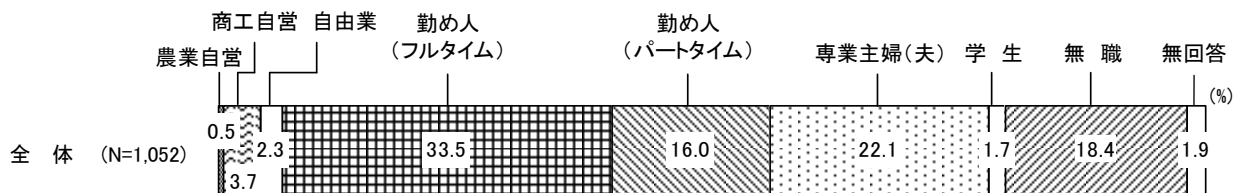


(3) 職業

職業は、「勤め人(フルタイム)」と「勤め人(パートタイム)」を合わせて49.5%となっていて、約半数を占めている。

働いている人(農業自営、商工自営、自由業、勤め人(フルタイム/パートタイム)の計)は、56.0%であり、働いていない人(専業主婦(夫)、学生、無職の計)は42.2%となっている(図表1-1-3)。

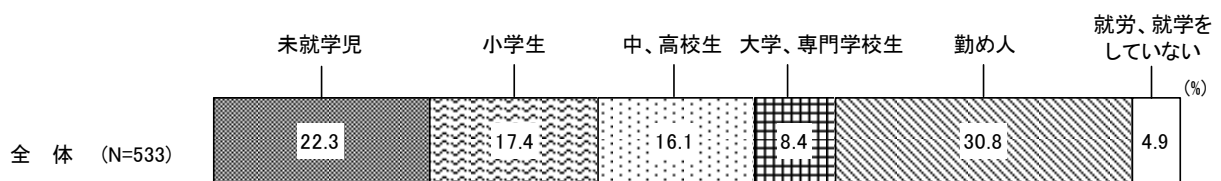
図表1-1-3 職業(全体)



(4) 同居する子どもの学齢

子どもと同居している回答者の子どもの学齢は、「勤め人」が30.8%となっている。「未就学児」は22.3%、「小学生」は17.4%、「中、高校生」は16.1%、「大学、専門学生」は8.4%となっている(図表1-1-4)。

図表1-1-4 子どもの学齢(全体)



注釈

※「学齢」とは、一般的に義務教育を受ける年齢のことを指すが、本調査では、子どもの就労、就学状況を指すものとして用いている。

(5) 居住年数

居住年数は、「20年以上」が63.6%で半数以上を占めている。「10～20年未満」は13.9%となっている。居住年数が10年未満の人は21.3%となっている(図表1-1-5)。

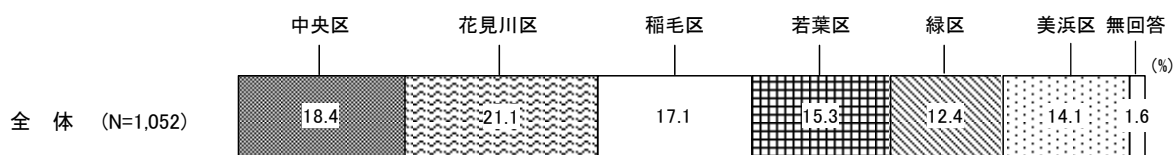
図表1-1-5 居住年数(全体)



(6) 居住地区

居住地区は、「中央区」が18.4%、「花見川区」が21.1%、「稲毛区」が17.1%、「若葉区」が15.3%、「緑区」が12.4%、「美浜区」が14.1%となっている(図表1-1-6)。

図表1-1-6 居住地区(全体)



<参考>各区人口と発送件数

	全市	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区
人口(人)	952,678	195,659	181,045	155,177	150,964	119,899	149,934
発送件数(件)	2,500	519	493	423	392	290	383

2 生涯学習活動の現況と将来動向

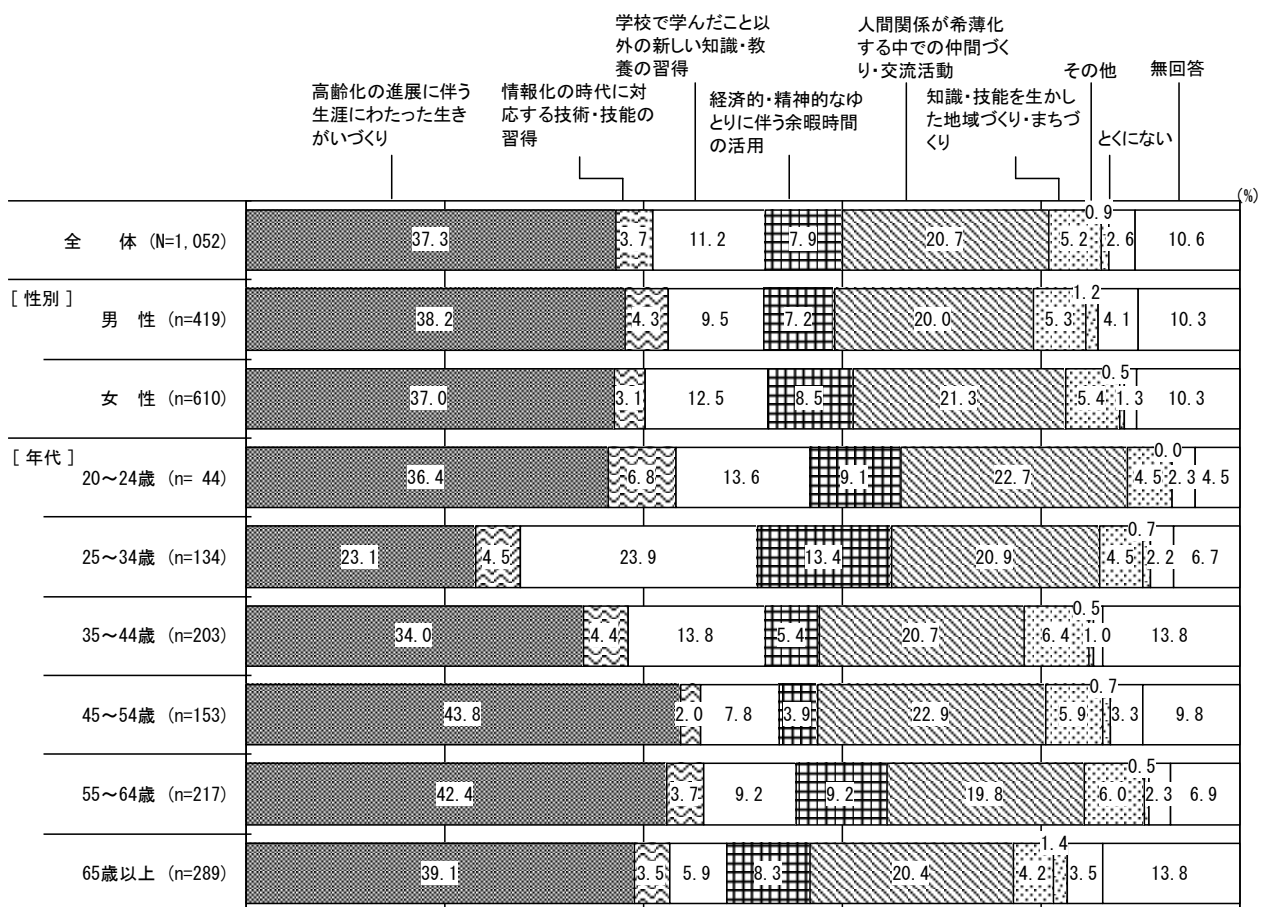
(1) 生涯学習活動の担う役割

問1 あなたは、一般的に生涯学習活動はこれからの時代にどのような役割を果たすと思いますか。あなたのお考えにもっとも近いものはつぎのうちどれですか。あてはまる番号に1つ○印をつけてください。

生涯学習活動の役割については、「高齢化の進展に伴う生涯にわたった生きがいがづくり(37.3%)」が最も高く、次いで「人間関係が希薄化する中での仲間づくり・交流活動(20.7%)」、「学校で学んだこと以外の新しい知識・教養の習得(11.2%)」となっている。

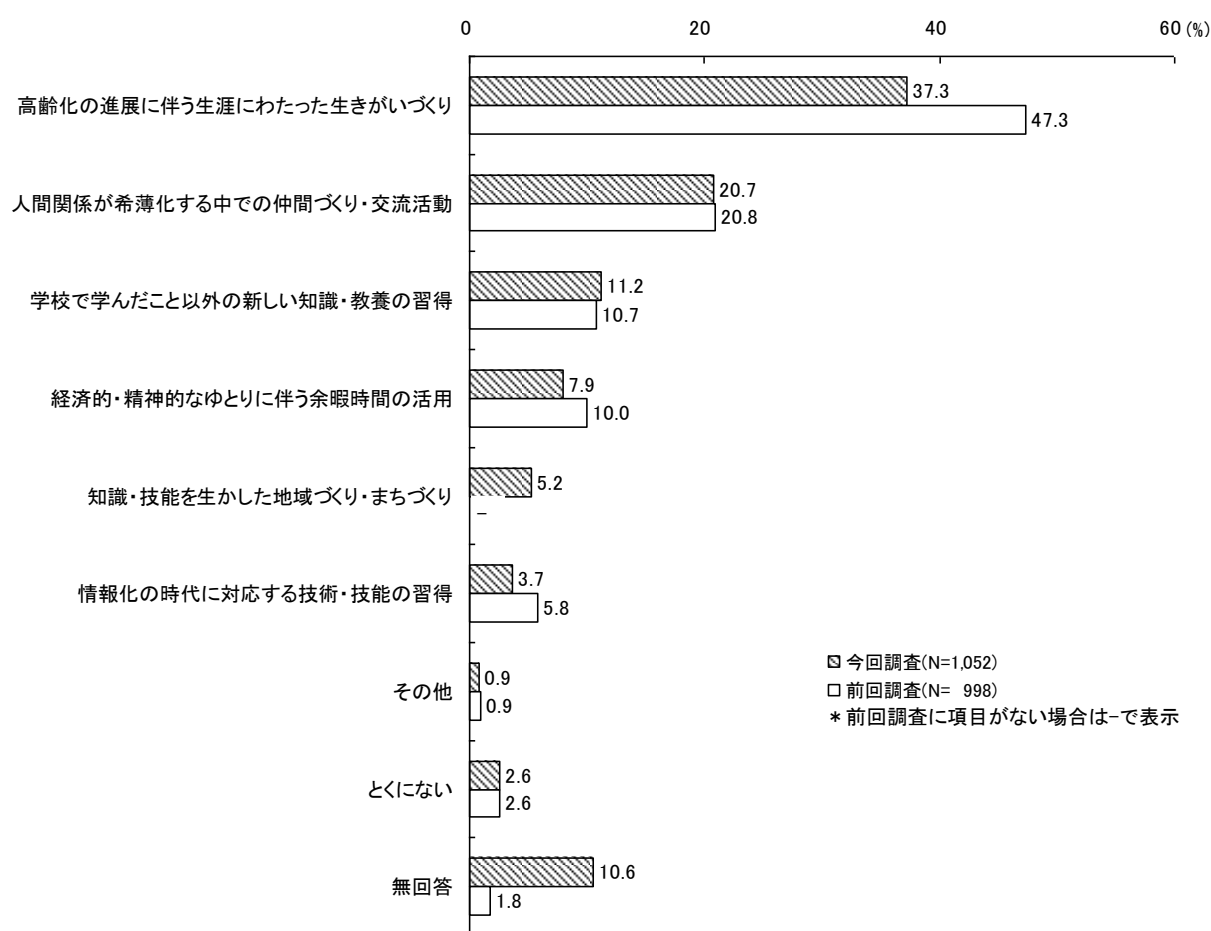
年代別にみると、45～64歳では「高齢化の進展に伴う生涯にわたった生きがいがづくり」が4割以上を占めている。一方、25～34歳では「学校で学んだこと以外の新しい知識・教養の習得(23.9%)」が最も高くなっており、年代によって、意識に違いがあることがうかがえる(図表1-2-1-1)。

図表1-2-1-1 生涯学習活動の担う役割(全体、性別、年代別)



生涯学習活動の担う役割について、前回調査(平成 17 年)の結果と比較すると、「高齢化の進展に伴う生涯にわたった生きがいづくり」が前回と同様に第 1 位となっているが、10.0 ポイントの減少となっている。変わって、新たに設けた「知識・技能を生かした地域づくり・まちづくり」に一定の数が集まり、「無回答」が増加している。生涯学習活動の担う役割に変化がみられる(図表 1-2-1-2)。

図表 1-2-1-2 生涯学習活動の担う役割の推移(全体/今回調査、前回調査)



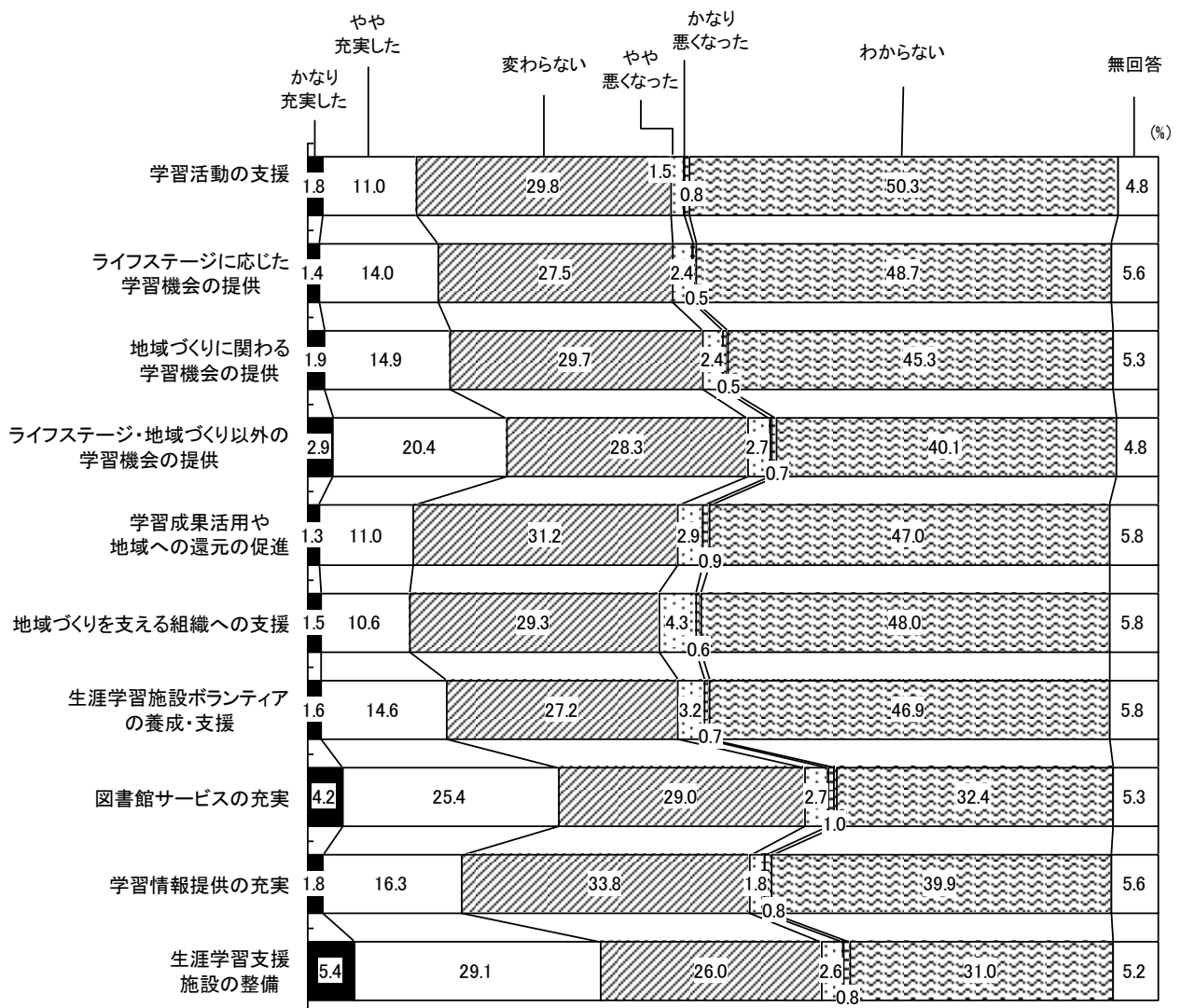
(2) 生涯学習環境の変化

問2 あなたは、5年前と比べて、千葉市の生涯学習環境はどのように変わったと思いますか。それぞれ、あてはまる番号に1つ○印をつけてください。※千葉市に転入されて5年未満の方は、転入された時と比べて回答してください。

生涯学習環境の変化の印象については、全ての分野において、『充実した（「かなり充実した」と「やや充実した」の計）』が『悪くなった（「かなり悪くなった」と「やや悪くなった」の計）』を上回っている。特に、「図書館サービスの充実」と「生涯学習支援施設の整備」では『充実した』が高くなっている。一方、「学習成果活用や地域への還元の促進」や「地域づくりを支える組織への支援」では『充実した』が低く、少ないとは言え『悪くなった』とする回答も多かった。

また、全体的に「変わらない」、「わからない」といった変化に実感がないという市民が多いことがうかがえる(図表1-2-2)。

図表1-2-2 生涯学習環境の変化(分野別)



(3) 生涯学習活動の目的

問3 あなたご自身の生涯学習活動について、あなたのお考えにもっとも近いものはつぎのうちどれですか。あてはまる番号に3つまで○印をつけてください。

生涯学習活動の目的については、「人生を豊かにする(37.6%)」が最も高く、次いで「人間関係を広げることができる(34.9%)」、「余暇を楽しく過ごせる(31.6%)」となっている。

年代別にみると、20～24歳では「知識や技術を高められる(45.5%)」、35～44歳では「人間関係を広げることができる(39.9%)」、25～34歳と45～64歳では「人生を豊かにする」が最も高くなっている。また、年代が上がるほど「老化防止になる」が高くなる傾向があり、65歳以上では「老化防止になる(49.1%)」、「健康に役立つ(38.1%)」が他の年代と比べて特に高くなっている。

職業別にみると、勤め人(フルタイム)と学生では「人生を豊かにする」、自営業・自由業、勤め人(パートタイム)では「人間関係を広げることができる」が最も高くなっている。

年代や職業によって、生涯学習活動の目的が異なることがうかがえる(図表1-2-3-1)。

図表1-2-3-1 生涯学習活動の目的(全体、性別、年代別、職業別)

(%)

		人生を豊かにする	人間関係を広げることができる	余暇を楽しく過ごせる	老化防止になる	知識や技術を高められる	地域や社会全体との関わりが深められる	健康に役立つ	社会に貢献できる	ストレスの解消になる	家庭生活に役立つ	今の仕事や将来の仕事に役立つ	資格取得に役立つ	その他	とくにない	無回答
全	体(N=1,052)	37.6	34.9	31.6	27.9	25.5	24.6	23.9	17.2	13.5	11.6	7.8	7.1	0.4	3.6	2.7
性別	男性(n=419)	33.2	34.8	31.7	28.2	24.6	28.6	25.1	16.7	12.2	10.7	7.9	7.6	0.5	4.5	2.4
	女性(n=610)	41.0	35.4	31.6	27.9	26.7	22.5	22.8	18.0	14.8	12.6	7.7	7.0	0.3	2.3	2.6
年代	20～24歳(n=44)	34.1	34.1	20.5	9.1	45.5	34.1	13.6	22.7	13.6	13.6	22.7	6.8	0.0	4.5	0.0
	25～34歳(n=134)	41.0	38.1	29.9	7.5	39.6	24.6	15.7	19.4	14.9	13.4	16.4	12.7	0.0	1.5	0.0
	35～44歳(n=203)	37.9	39.9	32.5	13.3	31.5	27.6	15.3	19.2	15.8	14.3	12.3	14.3	0.5	1.5	2.0
	45～54歳(n=153)	45.8	30.7	32.0	21.6	26.1	26.1	15.7	24.2	9.8	9.8	7.2	9.2	0.0	4.6	3.3
	55～64歳(n=217)	39.2	38.2	30.0	35.0	22.1	27.6	26.3	20.3	13.4	12.0	2.8	4.6	1.4	1.8	0.9
	65歳以上(n=289)	30.4	31.1	34.9	49.1	13.8	19.0	38.1	8.7	13.5	9.7	2.1	0.7	0.0	6.2	4.8
職業	自営業・自由業(n=68)	23.5	38.2	26.5	25.0	27.9	27.9	35.3	19.1	14.7	14.7	4.4	2.9	0.0	4.4	2.9
	勤め人(フルタイム)(n=352)	43.8	35.8	31.3	15.9	34.1	27.0	15.3	20.7	12.8	11.1	12.2	11.9	0.6	2.8	1.1
	勤め人(パートタイム)(n=168)	37.5	39.3	30.4	28.0	22.6	26.8	18.5	18.5	11.3	10.1	11.3	11.3	0.0	3.0	3.0
	専業主婦(夫)(n=232)	36.2	36.2	36.2	35.8	23.3	25.0	30.6	15.9	15.1	14.2	3.0	3.0	0.0	1.3	1.3
	学生(n=18)	50.0	27.8	22.2	11.1	27.8	38.9	16.7	33.3	11.1	11.1	16.7	5.6	0.0	5.6	0.0
無職(n=194)	33.0	29.9	32.0	44.3	14.4	17.5	33.5	9.3	13.9	9.8	2.6	2.1	1.0	7.2	5.2	

さらに、生涯学習活動の目的を『健康』、『日常生活』、『交流』、『資格・仕事』、『自己実現』の5分野にくくり直した(くくり方については注釈を参照)。

全体では『健康』が最も高く、次いで『交流』、『自己実現』となっている。

性別でみると、男女ともに『健康』が最も高くなっているが、次に高い項目をみると、男性は『交流』、女性は『自己実現』となっており、性別で違いがみられる。

年代別にみると、20～34歳では『資格・仕事』、35～44歳では『交流』、45～54歳では『自己実現』、55歳以上では『健康』となっており、年代による差が顕著である。また、年代が上がるほど『健康』が高くなる傾向がある。

職業別にみると、自営業・自由業、専業主婦(夫)、無職では『健康』、勤め人(フルタイム)、学生では『自己実現』、勤め人(パートタイム)では『交流』が最も高くなっている(図表1-2-3-2)。

図表1-2-3-2 生涯学習活動の目的<5分野>(全体、性別、年代別、職業別)

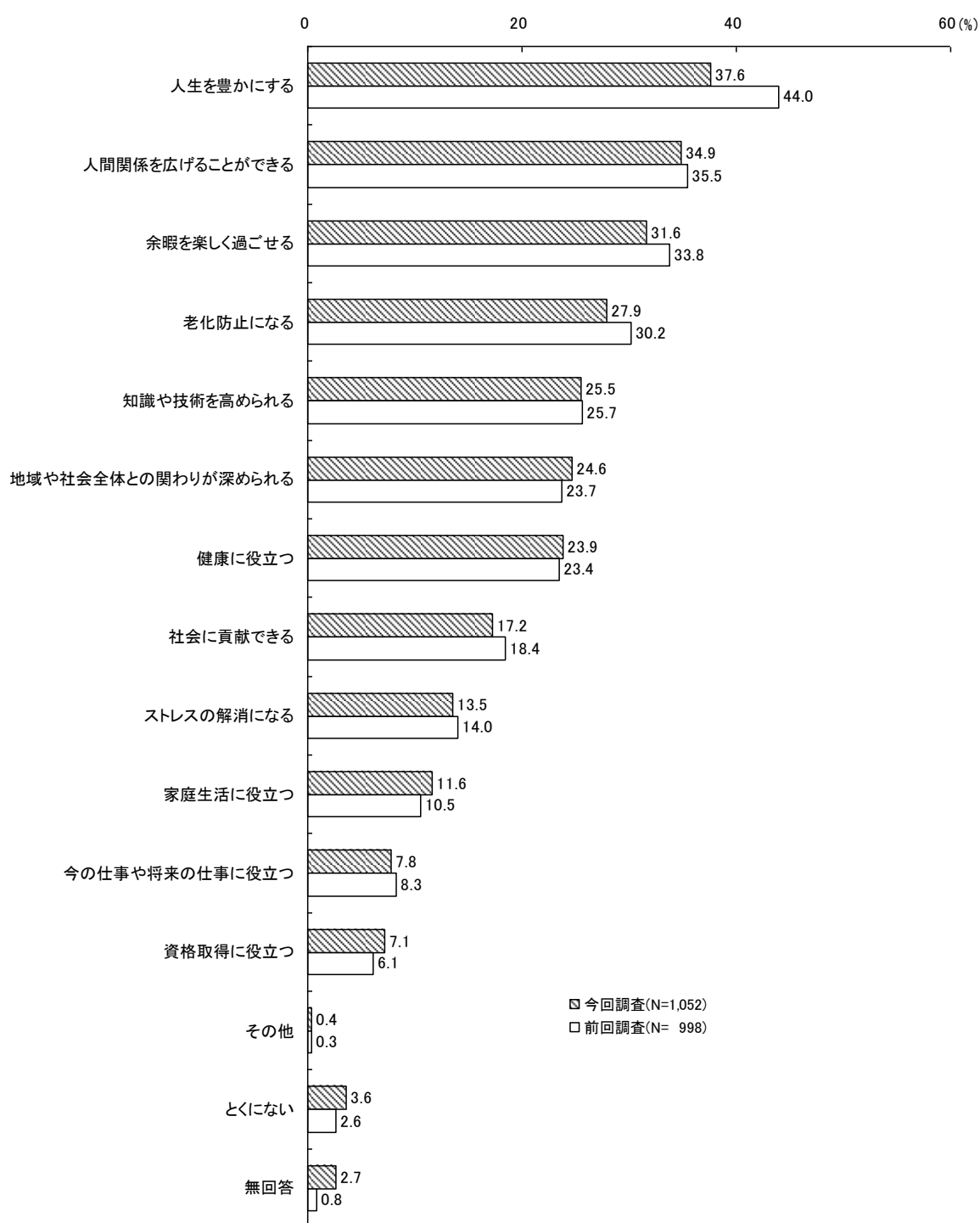
		(%)				
		健康	交流	自己実現	日常生活	資格・仕事
全体 (N=1,052)		65.3	59.5	54.8	43.2	40.4
性別	男性 (n=419)	65.4	63.5	49.9	42.5	40.1
	女性 (n=610)	65.4	57.9	59.0	44.3	41.5
年代	20～24歳 (n=44)	36.4	68.2	56.8	34.1	75.0
	25～34歳 (n=134)	38.1	62.7	60.4	43.3	68.7
	35～44歳 (n=203)	44.3	67.5	57.1	46.8	58.1
	45～54歳 (n=153)	47.1	56.9	69.9	41.8	42.5
	55～64歳 (n=217)	74.7	65.9	59.4	41.9	29.5
	65歳以上 (n=289)	100.7	50.2	39.1	44.6	16.6
職業	自営業・自由業 (n=68)	75.0	66.2	42.6	41.2	35.3
	勤め人(フルタイム) (n=352)	44.0	62.8	64.5	42.3	58.2
	勤め人(パートタイム) (n=168)	57.7	66.1	56.0	40.5	45.2
	専業主婦(夫) (n=232)	81.5	61.2	52.2	50.4	29.3
	学生 (n=18)	38.9	66.7	83.3	33.3	50.0
	無職 (n=194)	91.8	47.4	42.3	41.8	19.1

注釈

- ※『健康』は「老化防止になる」、「健康に役立つ」、「ストレスの解消になる」の計
- ※『日常生活』は「家庭生活に役立つ」、「余暇を楽しく過ごせる」の計
- ※『交流』は「人間関係を広げることができる」、「地域や社会全体との関わりが深められる」の計
- ※『資格・仕事』は「資格取得に役立つ」、「今の仕事や将来の仕事に役立つ」、「知識や技術を高められる」の計
- ※『自己実現』は「社会に貢献できる」、「人生を豊かにする」の計

生涯学習活動の目的について、前回調査(平成17年)の結果と比較すると、同様の傾向であり、「人生を豊かにする(37.6%)」、「人間関係を広げることができる(34.9%)」、「余暇を楽しく過ごせる(31.6%)」が高くなっているものの、「人生を豊かにする」が前回と比べて6.4ポイント減少している(図表1-2-3-3)。

図表1-2-3-3 生涯学習活動の目的の推移(全体/今回調査、前回調査)



(4) 生涯学習活動への参加状況

問4 あなたは、この1年間に、どのような生涯学習活動を行いましたか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

生涯学習活動への参加状況については、「とくにしていない(37.7%)」が最も高く、次いで「健康づくり・スポーツ(32.5%)」、「趣味・けいこ事(26.1%)」となっている。

性別にみると、「とくにしていない」が女性より男性で高くなっている。また、男性では「健康づくり・スポーツ(32.7%)」、女性では「健康づくり・スポーツ(32.8%)」、「趣味・けいこ事(30.7%)」が高くなっている。

年代別にみると、20～24歳では「趣味・けいこ事」、25歳以上では「健康づくり・スポーツ」が高い。また、「健康づくり・スポーツ」は年代が上がるほど高くなる傾向があり、「職業上必要な知識・技能・資格取得」は年代が若いほど高くなる傾向がある。

子どもの学齢別にみると、勤め人の親では「健康づくり・スポーツ(37.8%)」、「趣味・けいこ事(33.5%)」が全体より高くなっている。小学生の親では「とくにしていない」が低く、「ボランティア活動・地域活動」が高くなっている(図表1-2-4-1)。

図表1-2-4-1 生涯学習活動への参加状況(全体、性別、年代別、子どもの学齢別)

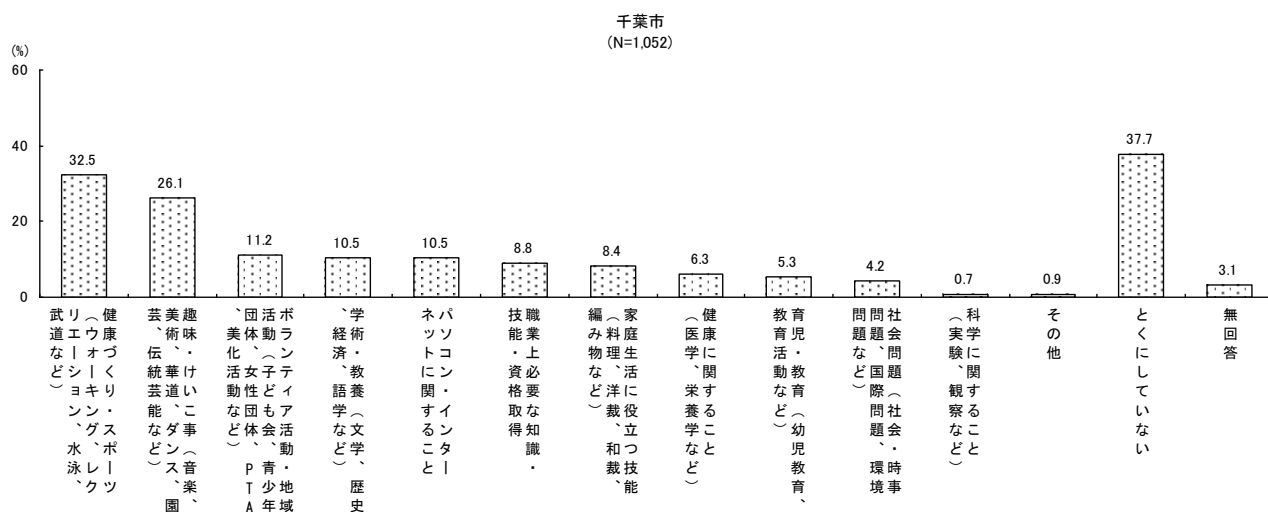
		健康づくり・スポーツ	趣味・けいこ事	ボランティア活動・地域活動	学術・教養	パソコン・インターネット	職業上必要な知識・技能・資格取得	家庭生活に役立つ技能	健康に関する事	育児・教育	社会問題	科学	その他	とくにしていない	無回答
全	体 (N=1,052)	32.5	26.1	11.2	10.5	10.5	8.8	8.4	6.3	5.3	4.2	0.7	0.9	37.7	3.1
性別	男性 (n=419)	32.7	19.8	10.0	12.2	13.8	10.0	2.4	4.8	2.9	6.7	0.7	1.4	41.8	2.9
	女性 (n=610)	32.8	30.7	12.5	9.5	8.2	8.0	12.8	7.4	7.2	2.5	0.7	0.5	34.6	3.1
年代	20～24歳 (n=44)	22.7	34.1	2.3	13.6	22.7	27.3	9.1	4.5	6.8	13.6	0.0	0.0	38.6	0.0
	25～34歳 (n=134)	29.1	14.9	9.7	7.5	4.5	13.4	11.9	4.5	12.7	3.0	0.7	1.5	43.3	0.0
	35～44歳 (n=203)	25.1	20.2	12.8	12.3	7.4	12.8	10.3	5.4	8.9	2.0	1.5	0.5	42.9	2.0
	45～54歳 (n=153)	32.0	22.2	12.4	12.4	12.4	10.5	6.5	4.6	5.2	2.0	0.0	0.0	39.9	2.0
	55～64歳 (n=217)	36.9	26.3	9.7	11.5	9.7	6.9	6.0	6.0	2.3	4.6	0.5	0.5	39.2	2.3
	65歳以上 (n=289)	38.4	37.4	13.1	8.3	13.5	1.7	8.3	9.3	1.7	5.9	0.3	1.7	28.4	6.6
子どもの学齢	未就学児 (n=119)	21.0	12.6	7.6	12.6	5.0	7.6	10.9	3.4	21.8	3.4	1.7	0.8	44.5	2.5
	小学生 (n=93)	30.1	17.2	22.6	7.5	11.8	11.8	10.8	6.5	5.4	2.2	0.0	1.1	37.6	3.2
	中、高校生 (n=86)	34.9	17.4	14.0	10.5	10.5	9.3	7.0	9.3	3.5	0.0	0.0	1.2	40.7	0.0
	大学、専門学校生 (n=45)	33.3	24.4	13.3	13.3	6.7	6.7	6.7	0.0	8.9	6.7	0.0	0.0	44.4	2.2
	勤め人 (n=164)	37.8	33.5	14.6	7.3	11.0	7.3	7.9	3.7	2.4	3.0	0.0	0.0	34.8	5.5
	就労、就学をしていない (n=26)	23.1	26.9	23.1	11.5	11.5	3.8	3.8	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	3.8

生涯学習活動への参加状況について、「生涯学習に関する世論調査(平成20年5月調査)」(内閣府)の結果と比較する。

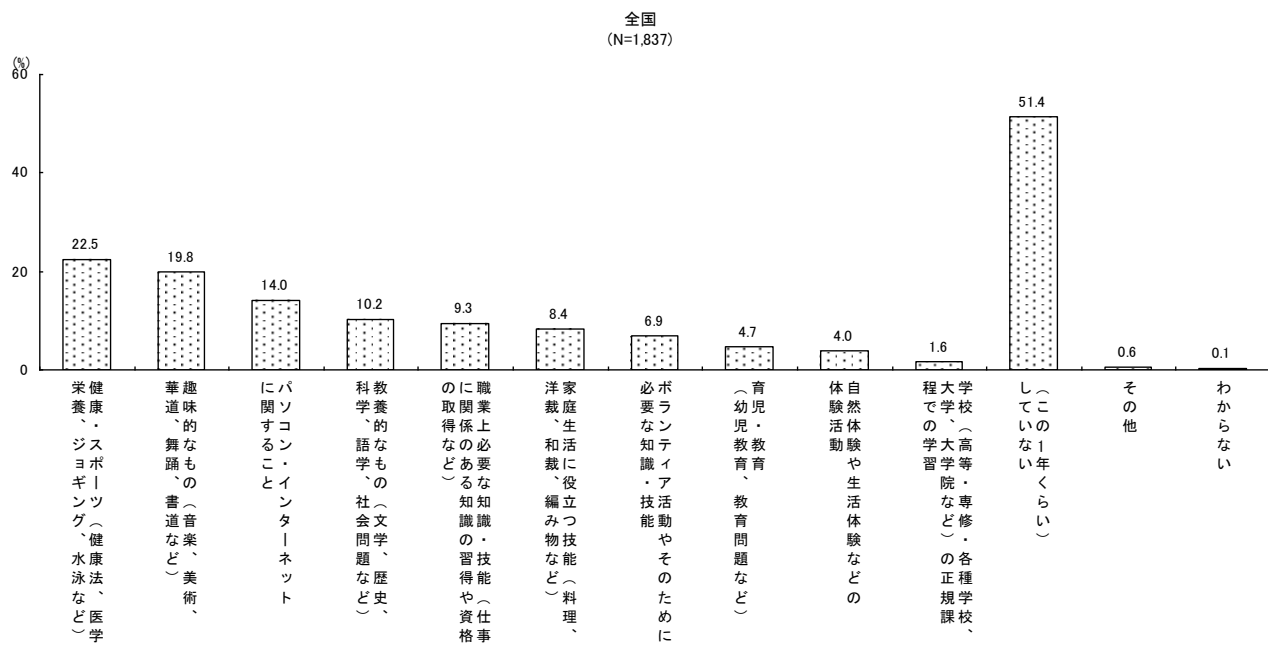
千葉市の上位3項目は「健康づくり・スポーツ」、「趣味・けいこ事」、「ボランティア活動・地域活動」で、全国の上位3項目は「健康・スポーツ」、「趣味的なもの」、「パソコン・インターネットに関すること」となっている。

千葉市は全国に比べて「ボランティア活動・地域活動」への参加が多い傾向がある(図表1-2-4-2)。

図表1-2-4-2 生涯学習活動への参加状況の比較(全体/千葉市、全国)



「生涯学習に関する世論調査 (平成20年5月調査)」
 Q. あなたは、この1年くらいの中に、「生涯学習」をしたことがありますか。この中からいくつでもあげてください。



(5) 生涯学習活動の方法・機会

問5 問4で1～12と回答した(生涯学習活動を行った)方におたずねします。
あなたは、どのような方法・機会を利用して生涯学習活動を行っていますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

生涯学習活動の方法・機会については、「生涯学習センター、公民館、図書館など行政機関や公共施設(32.0%)」が最も高く、次いで「友人・知人のグループや同好会(31.8%)」、「カルチャーセンターなど民間の講座、スポーツ教室(25.4%)」となっている。

性別にみると、男性は「友人・知人のグループや同好会(34.1%)」、女性は「生涯学習センター、公民館、図書館など行政機関や公共施設(36.6%)」が最も高くなっている。

年代別にみると、20～24歳では「パソコン、インターネットなどを利用した個人学習」、25～34歳と65歳以上では「友人・知人のグループや同好会」、35～44歳では「カルチャーセンターなど民間の講座、スポーツ教室」、45歳～64歳では「生涯学習センター、公民館、図書館など行政機関や公共施設」が最も高くなっている。

職業別にみると、勤め人(パートタイム)、専業主婦(夫)は「生涯学習センター、公民館、図書館など行政機関や公共施設」が最も高く、それ以外の職業では「友人・知人のグループや同好会」が最も高くなっている。

性別、年代、職業によって、方法や機会が異なることがうかがえる(図表1-2-5-1)。

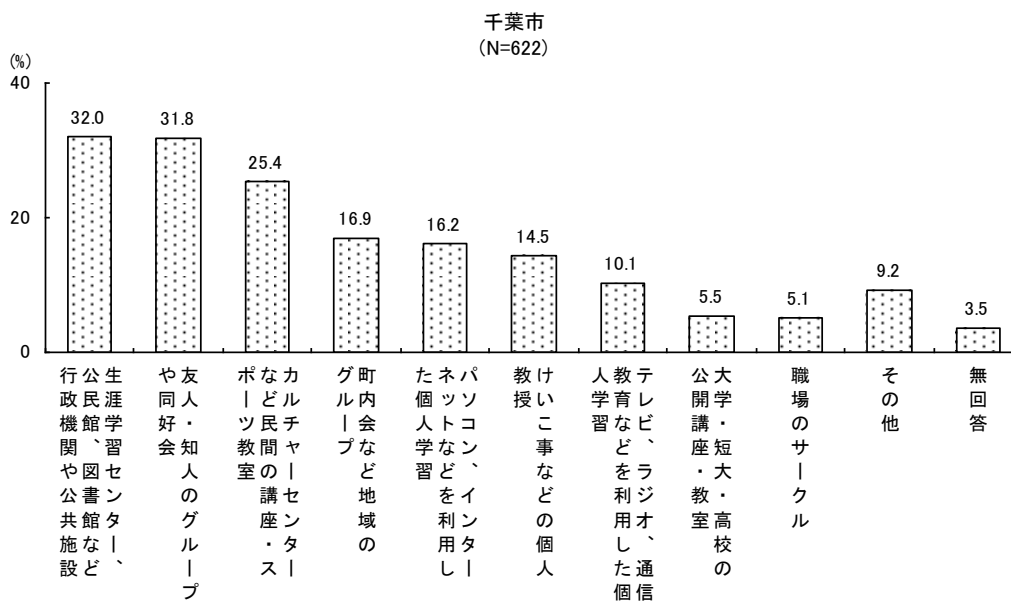
図表1-2-5-1 生涯学習活動の方法・機会(全体、性別、年代別、職業別)

		行政機関や公共施設など	生涯学習センター、公民館、図書館	友人・知人のグループ	ポータルサイトの講座・教室	カルチャーセンター	町内会など地域のグループ	ネットパソコン、インターネットなどを利用した個人学習	教授・個人学習	個人教育などを利用した個人学習	テレビ、ラジオ、通信教育などを利用した個人学習	公開講座・短大・高校の教室	職場のサークル	その他	無回答
全 体 (N=622)		32.0	31.8	25.4	16.9	16.2	14.5	10.1	5.5	5.1	9.2	3.5			
性別	男性 (n=232)	25.9	34.1	22.4	19.4	24.1	4.3	11.6	5.6	8.2	14.7	2.2			
	女性 (n=380)	36.6	30.3	27.4	15.8	11.3	20.8	9.2	5.5	3.2	6.1	3.9			
年代	20～24歳 (n=27)	11.1	22.2	7.4	7.4	37.0	11.1	18.5	29.6	18.5	0.0	3.7			
	25～34歳 (n=76)	25.0	28.9	15.8	13.2	22.4	17.1	10.5	7.9	6.6	11.8	2.6			
	35～44歳 (n=112)	32.1	25.9	33.0	15.2	12.5	15.2	10.7	3.6	1.8	15.2	0.9			
	45～54歳 (n=89)	25.8	22.5	23.6	19.1	18.0	21.3	7.9	4.5	7.9	9.0	4.5			
	55～64歳 (n=127)	33.9	31.5	30.7	15.0	14.2	11.8	7.9	6.3	6.3	8.7	3.1			
	65歳以上 (n=289)	39.4	43.1	24.5	21.3	13.8	12.2	10.6	2.1	2.7	6.4	5.3			
職業	自営業・自由業 (n=48)	25.0	52.1	20.8	25.0	16.7	12.5	6.3	4.2	10.4	12.5	4.2			
	勤め人(フルタイム) (n=182)	24.2	25.3	21.4	11.0	25.3	12.1	11.5	9.3	9.9	12.6	3.3			
	勤め人(パートタイム) (n=103)	34.0	20.4	26.2	22.3	11.7	21.4	6.8	3.9	6.8	4.9	2.9			
	専業主婦(夫) (n=157)	40.1	35.0	29.3	14.0	4.5	17.8	8.3	1.3	0.6	6.4	4.5			
	学生 (n=8)	12.5	50.0	0.0	0.0	37.5	0.0	12.5	62.5	0.0	0.0	0.0			
	無職 (n=117)	37.6	39.3	29.1	23.9	18.8	10.3	13.7	3.4	0.0	9.4	3.4			

生涯学習活動の方法・機会について、「生涯学習に関する世論調査（平成20年5月調査）」（内閣府）の結果と比較する。

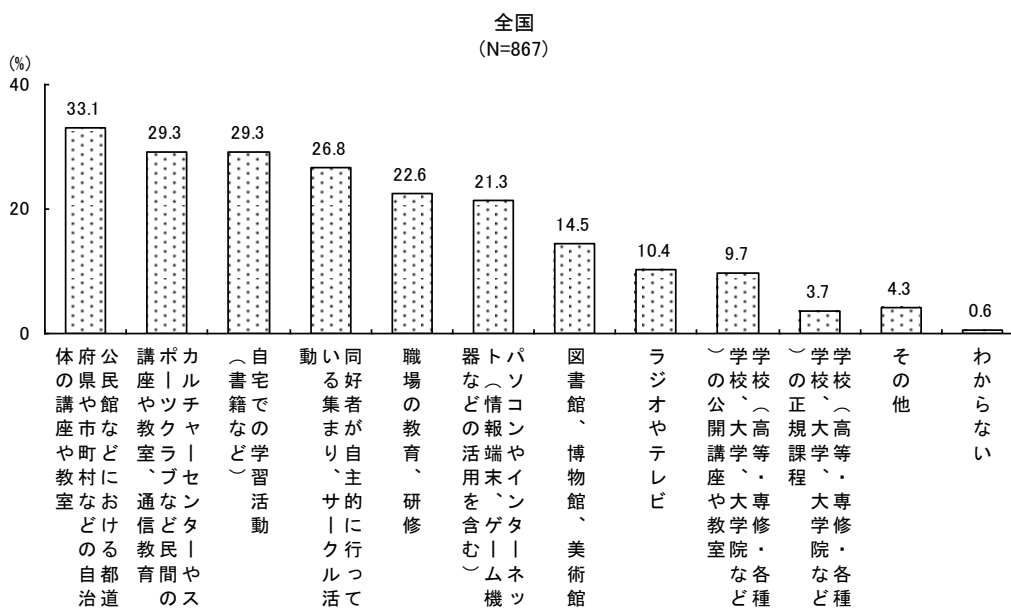
千葉市の上位3項目は「生涯学習センター、公民館、図書館など行政機関や公共施設」、「友人・知人のグループや同好会」、「カルチャーセンターなど民間の講座、スポーツ教室」で、全国の上位3項目は「公民館などにおける都道府県や市町村などの自治体の講座や教室」、「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育」、「自宅での学習活動（書籍など）」となっている（図表1-2-5-2）。

図表1-2-5-2 生涯学習活動の方法・機会の比較(全体/千葉市、全国)



「生涯学習に関する世論調査（平成20年5月調査）」

Q. あなたは、どのような場所や形態で「生涯学習」をしたことがありますか。この中からいくつでもあげてください。



(6) 生涯学習活動の費用

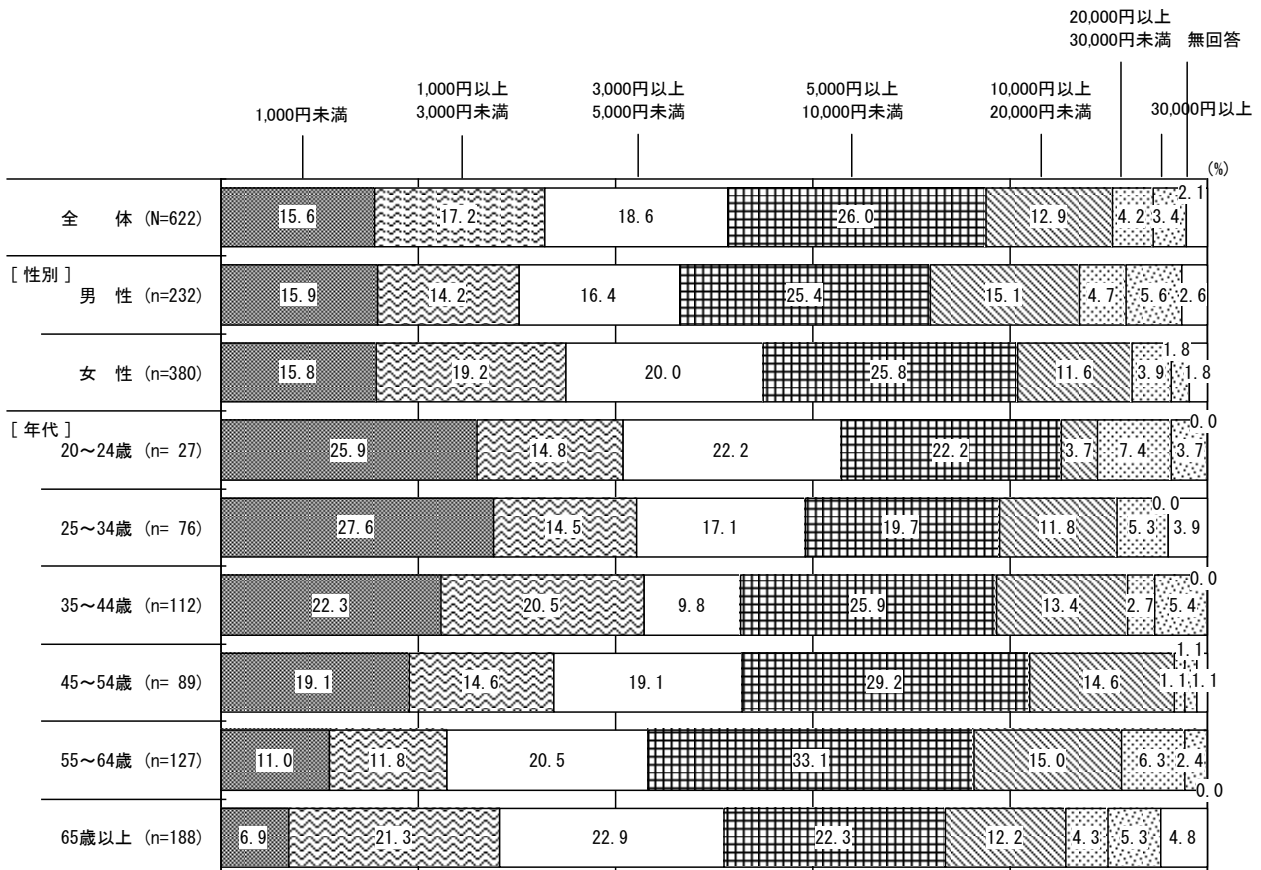
問6 問4で1～12と回答した(生涯学習活動を行った)方におたずねします。
 あなたは、生涯学習活動に1ヶ月あたりどのくらい費用(受講料・材料費・交通費などすべて合わせて)を出していますか。あてはまる番号に1つ○印をつけてください。

生涯学習活動に参加した人の費用については、「5,000円以上10,000円未満(26.0%)」が最も高く、次いで「3,000円以上5,000円未満(18.6%)」、「1,000円以上3,000円未満(17.2%)」となっている。

性別にみると、男性では「10,000円以上」が2割以上で女性より高くなっている。

年代別にみると、25～34歳では「1,000円未満」、35～64歳では「5,000円以上10,000円未満」が最も高くなっている(図表1-2-6)。

図表1-2-6 生涯学習活動の費用(全体、性別、年代別)



(7) 生涯学習活動を行う曜日・時間帯

問7 問4で1～12と回答した(生涯学習活動を行った)方におたずねします。
あなたが、生涯学習活動を行うのは、主に何曜日の何時ごろですか。あてはまる番号に
1つ○印をつけてください。

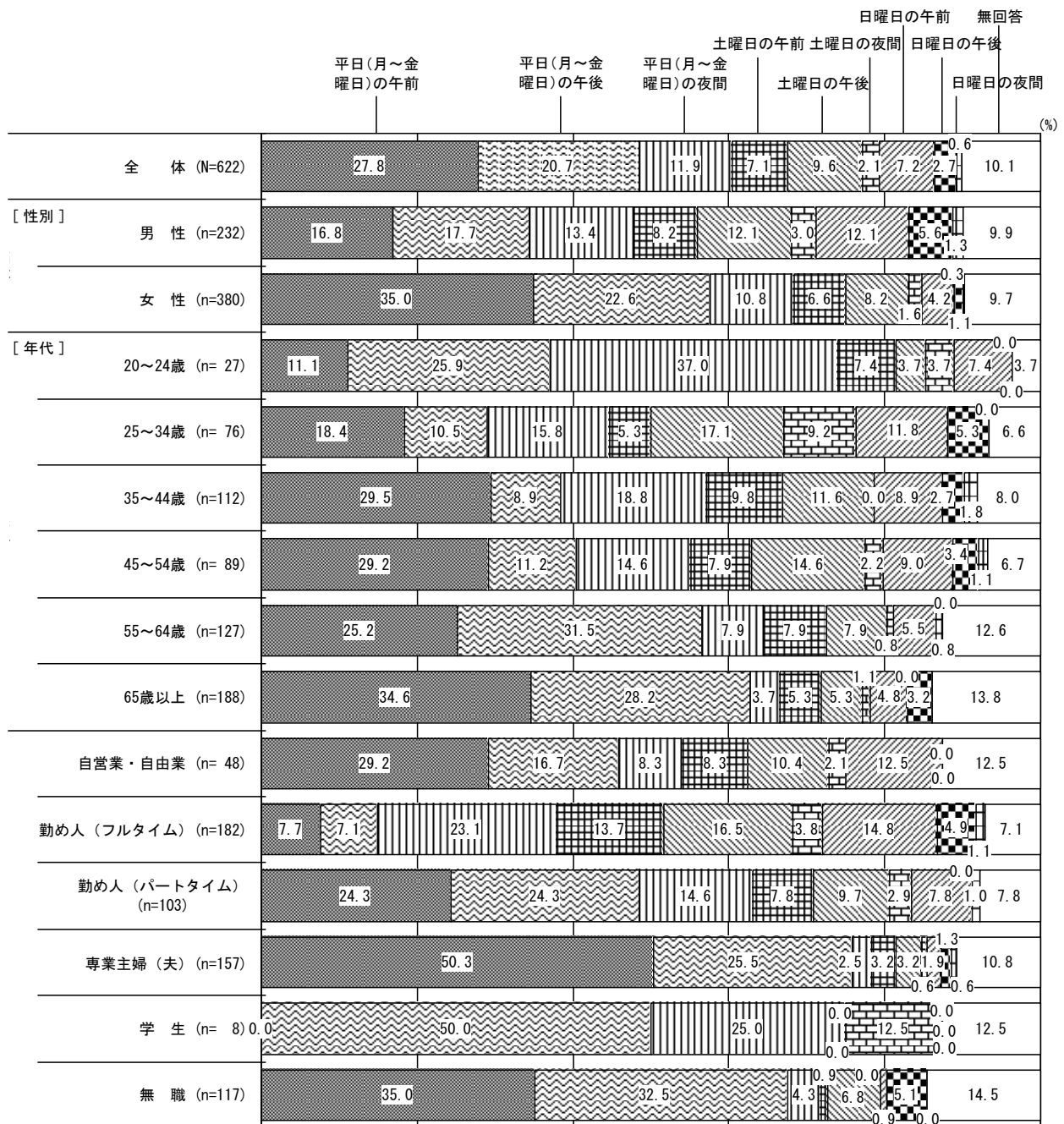
生涯学習活動に参加した人の活動曜日・時間帯については、「平日の午前(27.8%)」が最も高く、次いで「平日の午後(20.7%)」、「平日の夜間(11.9%)」となっている。

性別にみると、男性では「平日の午後(17.7%)」、女性では「平日の午前(35.0%)」が最も高くなっている。

年代別にみると、20～24歳では「平日の夜間」、25～54歳と65歳以上では「平日の午前」、55～64歳では「平日の午後」が最も高くなっている。

職業別にみると、専業主婦(夫)と無職、自営業・自由業では「平日の午前」、勤め人(フルタイム)では「平日の夜間」が最も高くなっている。いずれの職業も平日の活動が多いが、時間帯については違いがみられる(図表1-2-7)。

図表 1-2-7 生涯学習活動を行う曜日・時間帯(全体、性別、年代別、職業別)



(8) 生涯学習活動の阻害要因

問8 問4で13と回答した(生涯学習活動を行っていない)方におたずねします。
あなたが、生涯学習活動をしらない理由は何ですか。あてはまる番号に3つまで○印をつけてください。

生涯学習活動に参加しなかった人の理由については、「仕事のため時間がとれない(46.9%)」が最も高く、次いで「どんな生涯学習活動があるのかわからない(38.0%)」、「家事・育児・介護などで時間がとれない(17.4%)」となっている。

性別にみると、男性、女性ともに「仕事のため時間がとれない(男性:57.1%、女性39.8%)」が最も高い。また、女性は「家事・育児・介護などで時間がとれない(26.1%)」が男性より高く、男女間での明確な差があらわれている。

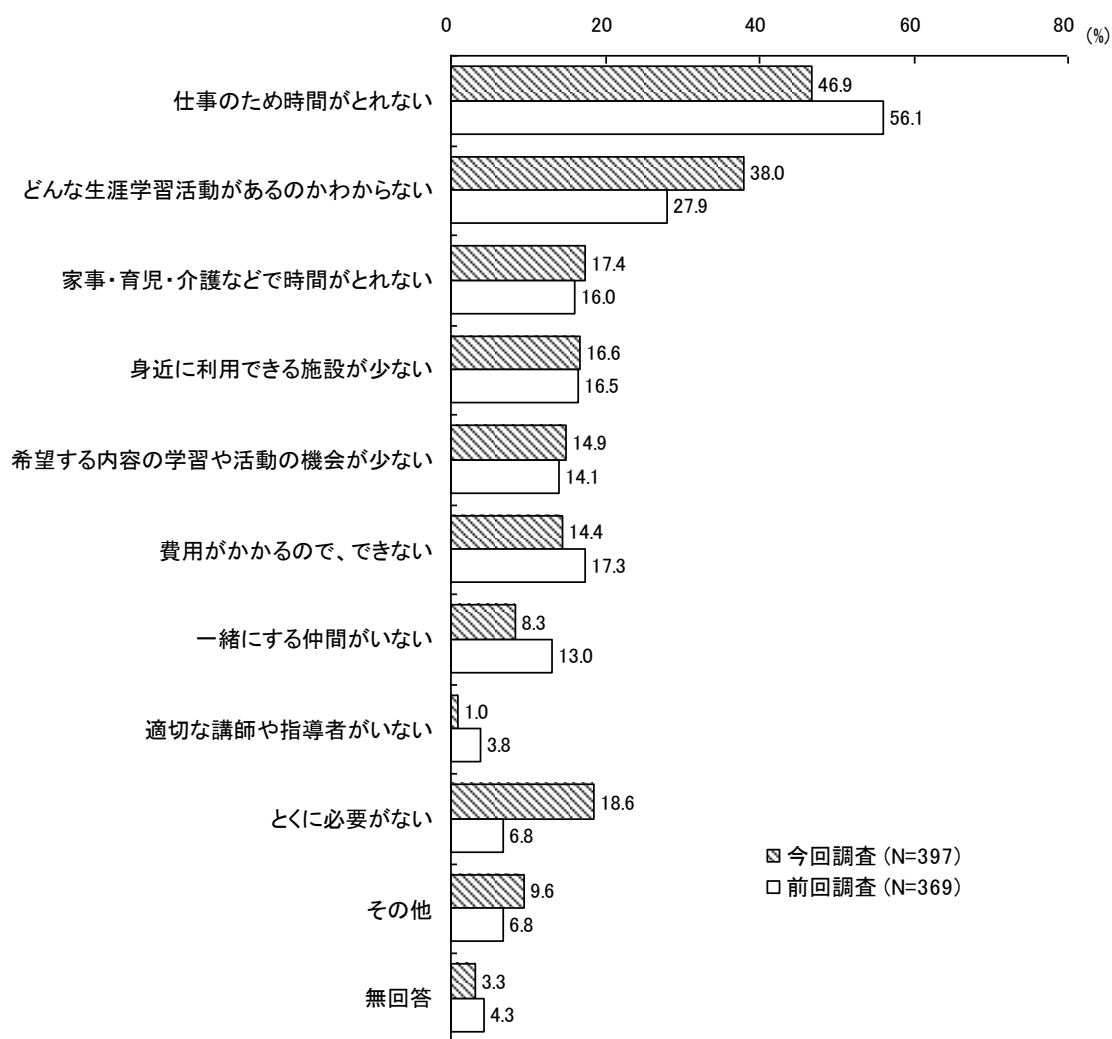
年代別にみると、25歳～64歳では「仕事のため時間がとれない」が最も高く、5割以上を占めている。20～24歳では「どんな生涯学習活動があるのかわからない」が最も高く、5割以上を占めている。25～44歳の年代では「家事・育児・介護などで時間がとれない」が全体より高くなっている(図表1-2-8-1)。

図表1-2-8-1 生涯学習活動の阻害要因(全体、性別、年代別)

		仕事のため時間がとれない	あど るの な か わ か ら な い 学 習 活 動 が	で家 事・ 育 児・ 介 護 な ど の 時 間 が と れ な い	が身 近 に 利 用 で き る 施 設 が 少 な い	活希 望 す る 内 容 の 学 習 や 機 会 が 少 な い	き費 用 が か か る の で 、 で	い一 緒 に す る 仲 間 が い な	い適 切 な 講 師 や 指 導 者 が	とく に 必 要 が な い	そ の 他	無 回 答
全	体 (N=397)	46.9	38.0	17.4	16.6	14.9	14.4	8.3	1.0	18.6	9.6	3.3
性 別	男 性 (n=175)	57.1	39.4	6.9	14.3	11.4	8.6	8.6	1.7	26.3	8.0	1.7
	女 性 (n=211)	39.8	37.4	26.1	19.0	18.0	19.9	8.5	0.5	11.8	10.4	4.7
年 代	20～24歳 (n=17)	47.1	52.9	5.9	23.5	17.6	11.8	11.8	0.0	23.5	11.8	5.9
	25～34歳 (n=58)	53.4	43.1	25.9	12.1	19.0	20.7	5.2	1.7	10.3	1.7	1.7
	35～44歳 (n=87)	54.0	36.8	33.3	13.8	16.1	19.5	4.6	0.0	14.9	5.7	3.4
	45～54歳 (n=61)	62.3	37.7	14.8	9.8	23.0	18.0	4.9	0.0	13.1	6.6	1.6
	55～64歳 (n=85)	57.6	38.8	12.9	14.1	8.2	12.9	10.6	2.4	15.3	9.4	5.9
	65歳以上 (n=82)	12.2	31.7	3.7	30.5	11.0	3.7	14.6	1.2	32.9	20.7	2.4

生涯学習活動の阻害要因について、前回調査(平成17年)と比較すると、「仕事のため時間がとれない」が減少している。一方、「どんな生涯学習活動があるのかわからない」、「とくに必要がない」が増加している。5年前と比べて、生涯学習活動の阻害要因に変化があることがうかがえる(図表1-2-8-2)。

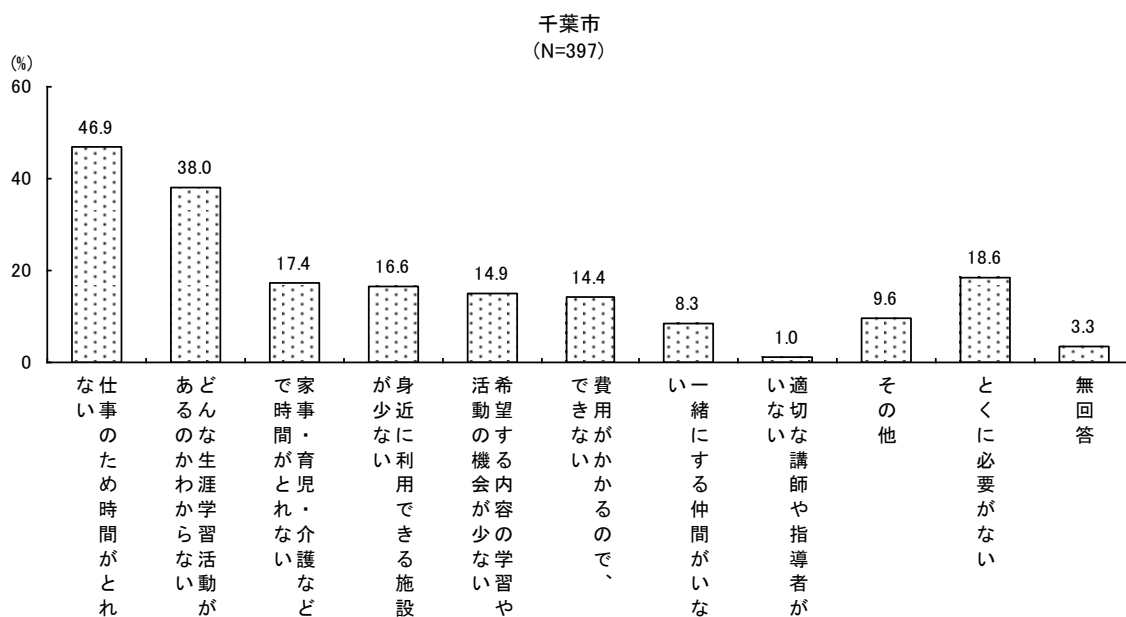
図表1-2-8-2 生涯学習活動の阻害要因の推移(全体/今回調査、前回調査)



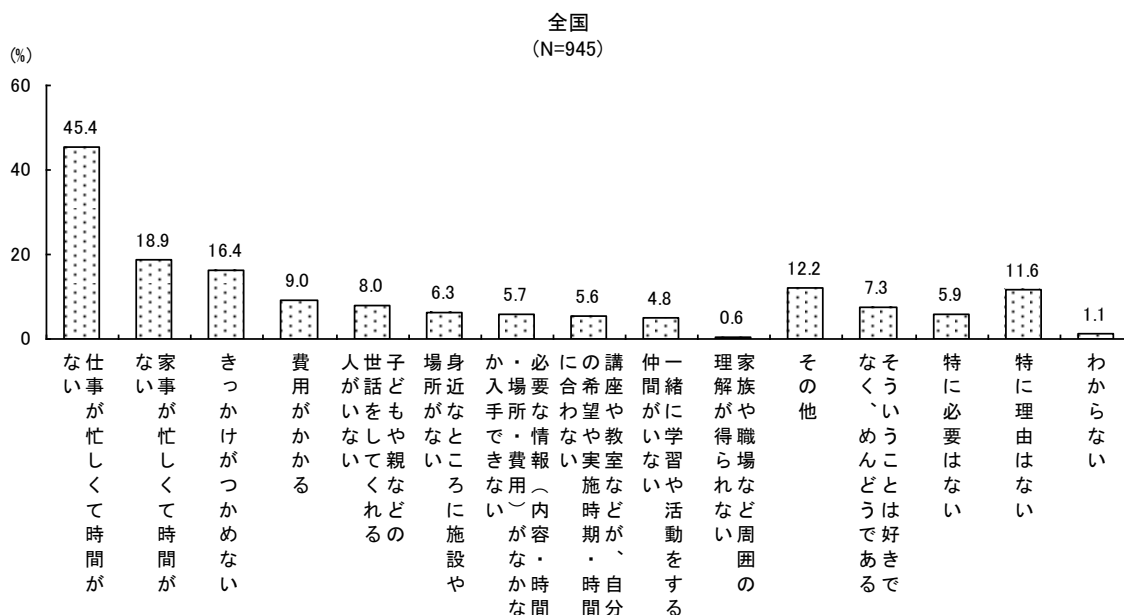
生涯学習活動の阻害要因について、「生涯学習に関する世論調査（平成20年5月調査）」（内閣府）の結果と比較する。

千葉市の上位3項目は「仕事のため時間がとれない」、「どんな生涯学習活動があるのかわからない」、「家事・育児・介護などで時間がとれない」で、全国の上位3項目は「仕事が忙しくて時間がない」、「家事が忙しくて時間がない」、「きっかけがつかめない」となっている（図表1-2-8-3）。

図表1-2-8-3 生涯学習活動の阻害要因の比較(全体/千葉市、全国)



「生涯学習に関する世論調査（平成20年5月調査）」
 Q. この1年くらい「生涯学習」を行っていない理由は何ですか。この中からいくつかもあげてください。



(9) 生涯学習活動による成果の活用方法

問9 あなたは、生涯学習活動を通じて身につけた知識・技能や経験を、どのような形で生かしたいと思いますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

生涯学習活動による成果の活用方法については、「人生をより豊かにしたい(61.3%)」が6割以上を占めて最も高く、次いで「日常生活に生かしたい(35.9%)」、「さらに深い知識や技術を身につけたい(21.8%)」となっている。

性別にみると、男女ともに「人生をより豊かにしたい(男性：58.0%、女性：63.6%)」が最も高くなっている。

年代別にみると、20～24歳では「仕事や就職に生かしたい(54.5%)」が最も高く、その他の年代では「人生をより豊かにしたい」が最も高くなっている。また、年代が若いほど「資格を取りたい」が高くなっており、生涯学習活動を仕事や就職、資格の取得に生かしていることがうかがえる(図表1-2-9-1)。

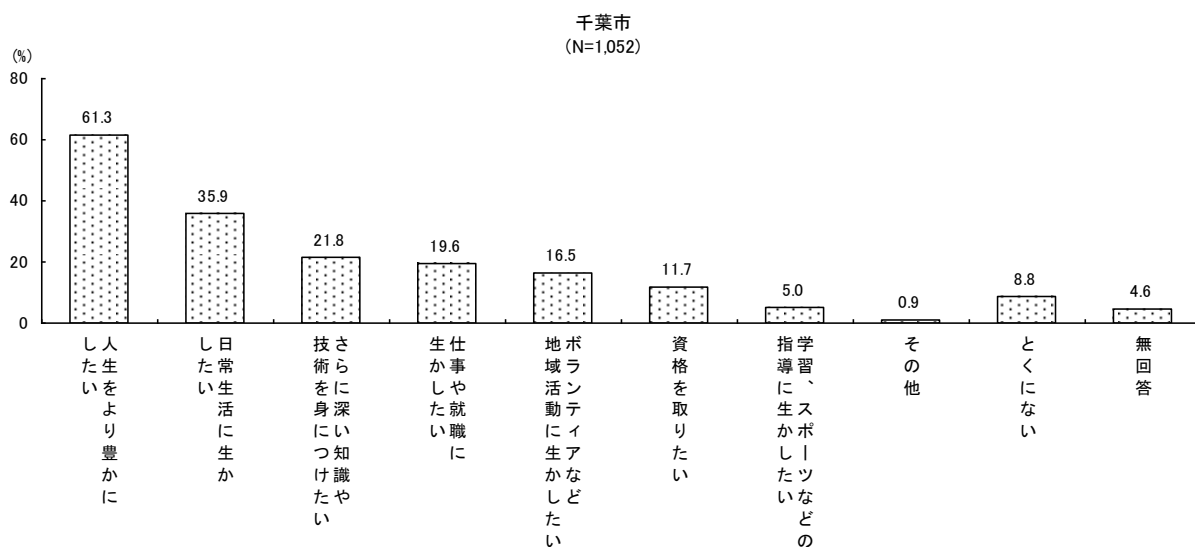
図表1-2-9-1 生涯学習活動による成果の活用方法(全体、性別、年代別)

		(%)									
		た人生をより豊かにしたい	い日常生活に生かした	術さらに深い知識や技	た仕事や就職に生かし	域ポランティアなど地	資格を取りたい	の学習、スポーツなど	その他	とくにな	無回答
全 体 (N=1,052)		61.3	35.9	21.8	19.6	16.5	11.7	5.0	0.9	8.8	4.6
性別	男 性 (n=419)	58.0	30.8	20.0	17.2	18.4	12.2	7.9	1.0	11.7	3.8
	女 性 (n=610)	63.6	40.2	23.4	21.6	15.7	11.6	3.1	0.8	6.9	4.4
年代	20～24歳 (n=44)	47.7	25.0	34.1	54.5	2.3	31.8	11.4	0.0	9.1	0.0
	25～34歳 (n=134)	56.0	47.8	21.6	36.6	11.9	21.6	6.0	0.7	9.0	0.0
	35～44歳 (n=203)	63.1	33.0	27.1	30.5	11.8	19.7	5.9	1.0	4.4	4.4
	45～54歳 (n=153)	63.4	30.1	30.1	28.8	24.2	18.3	4.6	0.7	5.2	2.6
	55～64歳 (n=217)	70.0	42.4	18.0	8.8	22.6	3.2	4.1	0.5	7.8	2.8
	65歳以上 (n=289)	57.8	32.2	14.5	2.1	16.3	1.4	4.2	1.4	14.2	9.3

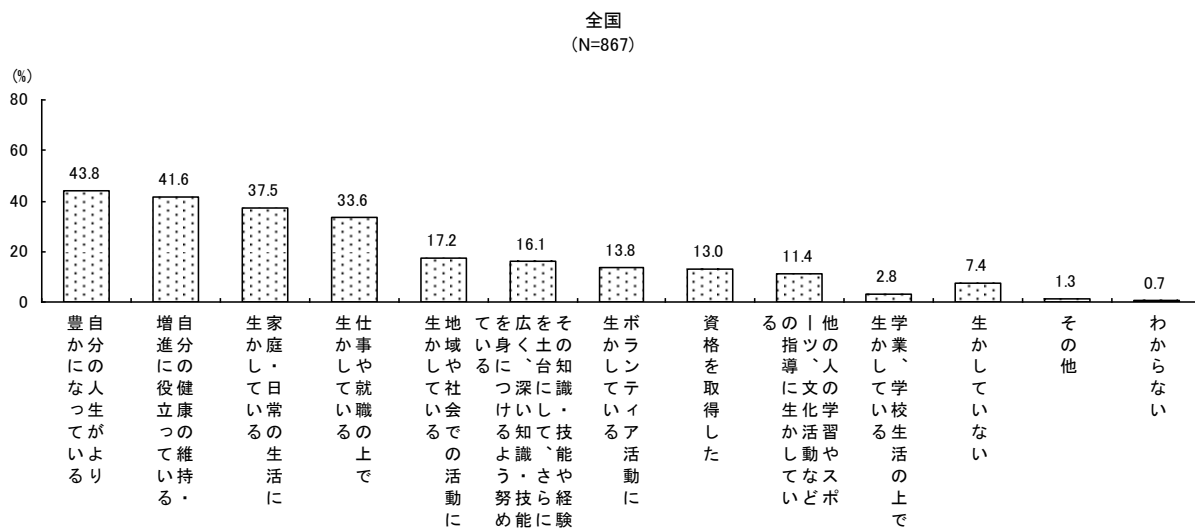
生涯学習活動による成果の活用方法について、「生涯学習に関する世論調査（平成20年5月調査）」（内閣府）の結果と比較する。

千葉市の上位3項目は「人生をより豊かにしたい」、「日常生活に生かしたい」、「さらに深い知識や技術を身につけたい」で、全国の上位3項目は「自分の人生がより豊かになっている」、「自分の健康の維持・増進に役立っている」、「家庭・日常の生活に生かしている」となっている。千葉市は「人生をより豊かにしたい」となっているのが、特徴的である(図表1-2-9-2)。

図表1-2-9-2 生涯学習活動による成果の活用方法の比較(全体/千葉市、全国)



「生涯学習に関する世論調査（平成20年5月調査）」
 Q. あなたは、「生涯学習」を通じて身につけた知識・技能や経験を、どのように生かしていますか。この中からいくつでもあげてください。



(10) 生涯学習活動への参加意向

問 10 あなたは、今後どのような生涯学習活動をしてみたいと思いますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

生涯学習活動への参加意向については、「健康づくり・スポーツ(50.9%)」が最も高く、次いで「趣味・けいこ事(46.8%)」、「学術・教養(27.8%)」となっている。

性別にみると、男性は「健康づくり・スポーツ(56.3%)」、女性は「趣味・けいこ事(53.1%)」が最も高くなっている。

年代別にみると、25～54歳の年代では「趣味・けいこ事」が5割以上、35～64歳の年代では「健康づくり・スポーツ」が5割以上を占めて高くなっている。「職業上必要な知識・技能・資格取得」は年代が若いほど高くなっており、20～24歳の年代では4割以上を占めている。

子どもの学齢別にみると、いずれも「健康づくり・スポーツ」、「趣味・けいこ事」が高くなっている。未就学児の親では「育児・教育(27.7%)」が全体より高くなっている。また、大学生・専門学校生の親では「健康づくり・スポーツ(66.7%)」、「学術・教養(40.0%)」、「パソコン・インターネット(28.9%)」、「健康に関すること(33.3%)」、「社会問題(22.2%)」が全体より高い(図表1-2-10-1)。

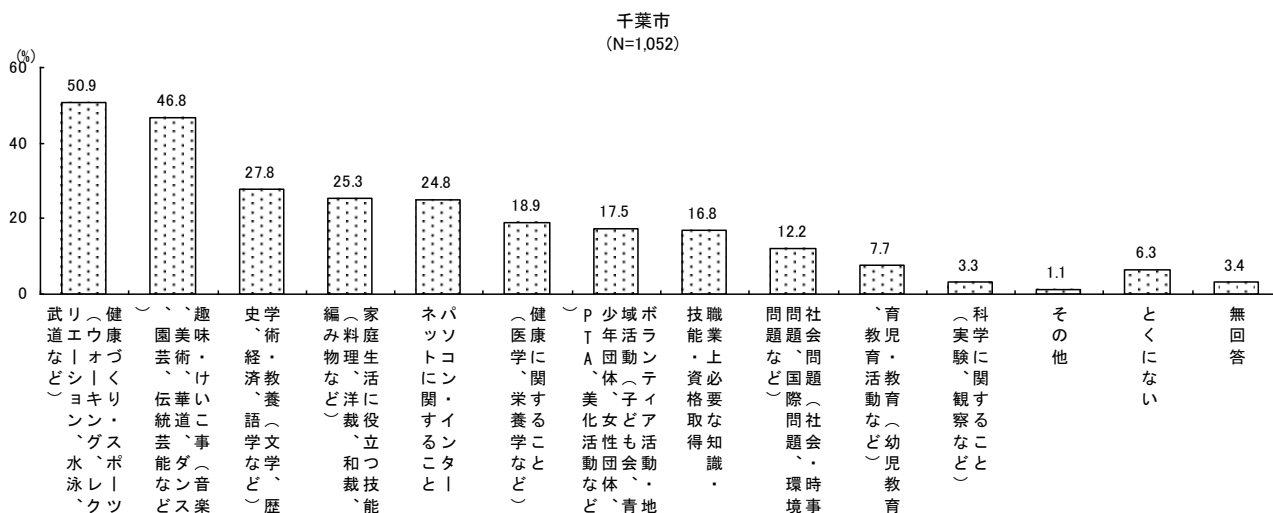
図表1-2-10-1 生涯学習活動への参加意向
(全体、性別、年代別、子どもの学齢別)

		健康づくり・スポーツ	趣味・けいこ事	学術・教養	家庭生活に役立つ技能	パソコン・インターネット	健康に関すること	域活動・ボランティア活動・地域活動	職業上必要な知識・技能・資格取得	社会問題	育児・教育	科学	その他	とくにない	無回答
全	体 (N=1,052)	50.9	46.8	27.8	25.3	24.8	18.9	17.5	16.8	12.2	7.7	3.3	1.1	6.3	3.4
性別	男性 (n=419)	56.3	37.9	29.6	12.2	26.3	14.3	18.4	14.3	15.0	4.3	5.0	1.7	8.1	3.1
	女性 (n=610)	47.9	53.1	26.9	35.1	24.1	22.1	17.2	18.5	10.2	10.3	2.0	0.8	4.8	3.1
年代	20～24歳 (n=44)	47.7	43.2	31.8	31.8	36.4	15.9	13.6	43.2	11.4	11.4	6.8	0.0	4.5	0.0
	25～34歳 (n=134)	47.8	56.7	35.1	38.8	20.1	20.9	14.2	38.8	11.2	18.7	3.0	0.0	3.7	0.0
	35～44歳 (n=203)	51.2	51.2	28.1	29.6	22.2	14.8	12.8	26.1	10.3	14.3	3.9	1.0	2.5	3.4
	45～54歳 (n=153)	57.5	53.6	37.9	28.8	27.5	16.3	25.5	18.3	14.4	7.8	5.9	0.7	3.3	3.3
	55～64歳 (n=217)	58.1	44.2	27.6	19.8	28.1	18.9	19.8	8.8	13.4	3.2	2.3	1.8	4.6	1.8
	65歳以上 (n=289)	45.0	39.4	18.3	18.3	23.5	23.2	17.3	1.4	12.1	1.0	1.4	1.7	12.5	6.2
子どもの学齢	未就学児 (n=119)	52.9	52.9	25.2	32.8	16.0	15.1	13.4	23.5	12.6	27.7	4.2	0.0	1.7	4.2
	小学生 (n=93)	52.7	45.2	25.8	30.1	25.8	11.8	14.0	23.7	8.6	8.6	3.2	1.1	1.1	3.2
	中、高校生 (n=86)	51.2	52.3	30.2	17.4	25.6	14.0	18.6	17.4	15.1	7.0	4.7	1.2	4.7	2.3
	大学、専門学校生 (n=45)	66.7	51.1	40.0	31.1	28.9	33.3	31.1	15.6	22.2	11.1	2.2	0.0	2.2	2.2
	勤め人 (n=164)	49.4	45.1	23.2	21.3	25.0	17.7	18.9	8.5	13.4	1.8	1.8	3.7	8.5	4.9
	就労、就学をしていない (n=26)	61.5	26.9	19.2	19.2	26.9	26.9	34.6	0.0	3.8	3.8	3.8	0.0	11.5	3.8

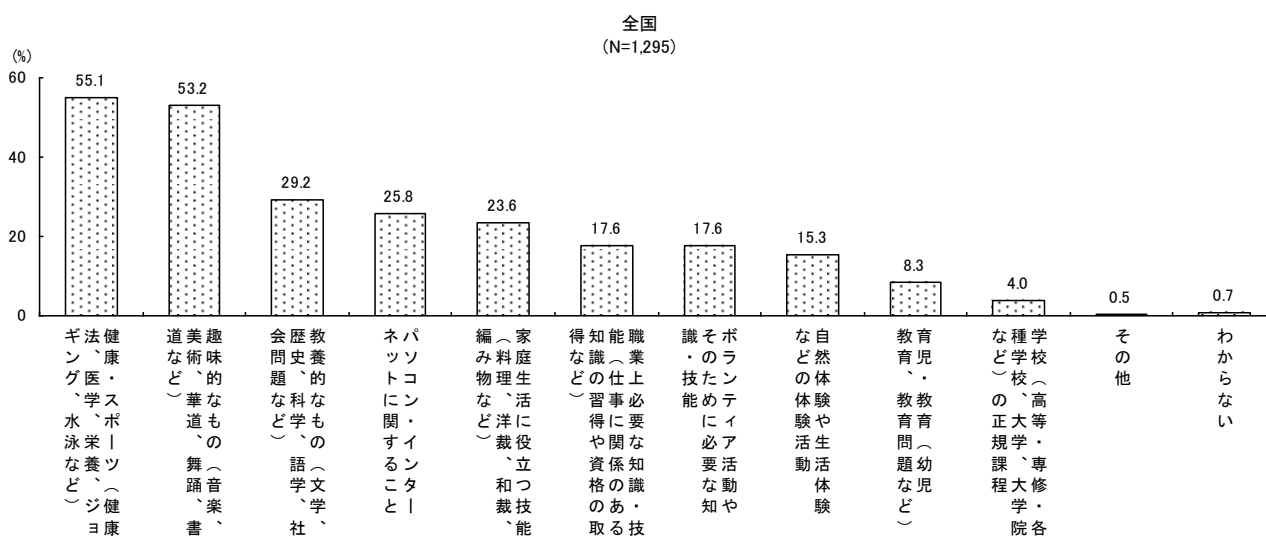
生涯学習活動への参加意向について、「生涯学習に関する世論調査(平成20年5月調査)」(内閣府)の結果と比較する。

千葉市の上位3項目は「健康づくり・スポーツ」、「趣味・けいこ事」、「学術・教養」で、全国の上位3項目は「健康・スポーツ」、「趣味的なもの」、「教養的なもの」となっている。千葉市は全国と同様の傾向となっている(図表1-2-10-2)。

図表1-2-10-2 生涯学習活動への参加意向の比較(全体/千葉市、全国)



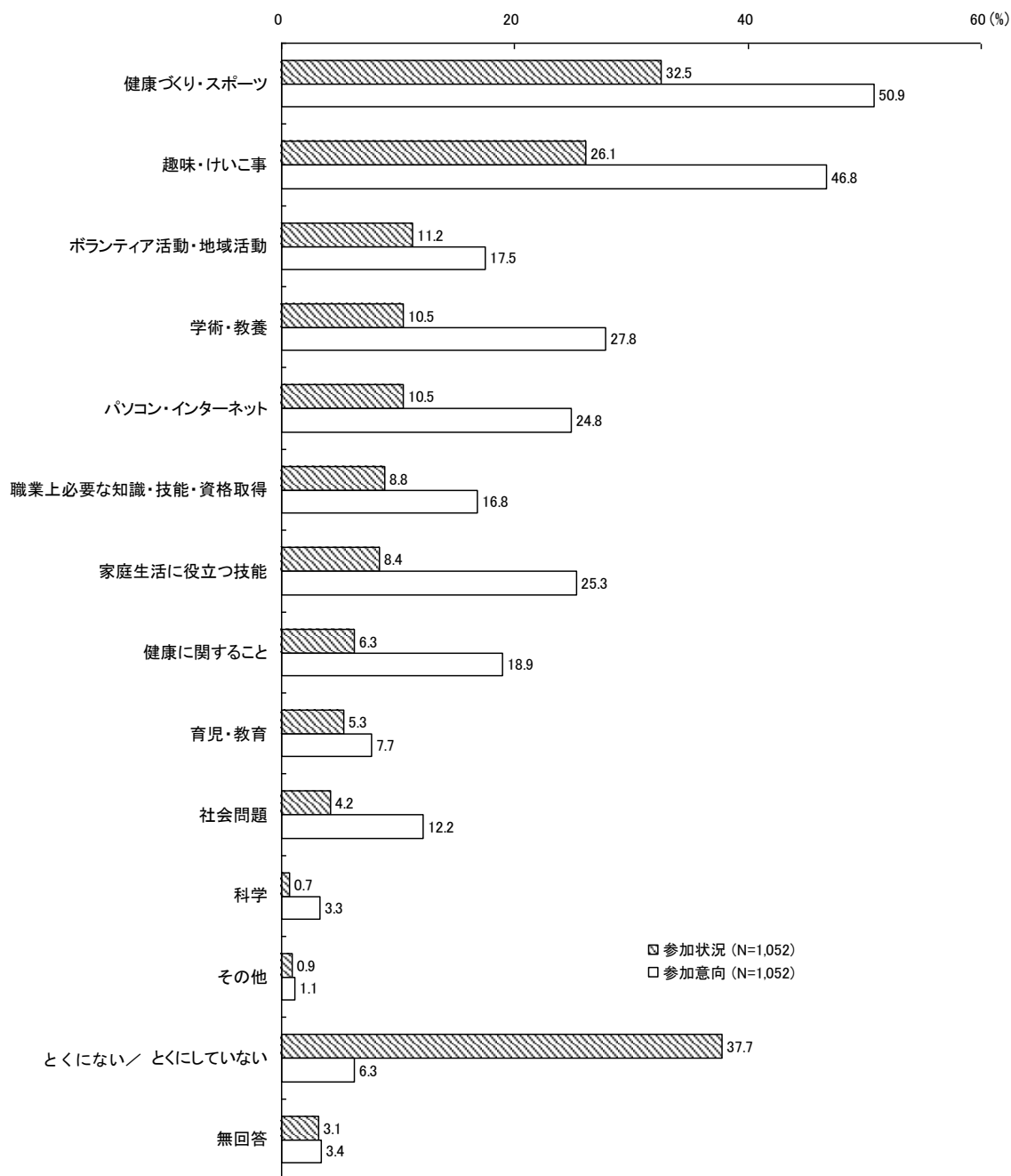
「生涯学習に関する世論調査 (平成20年5月調査)」
 Q. あなたは、どのような「生涯学習」をしてみたいと思いますか。この中からいくつかあげてください。



生涯学習活動への参加状況と参加意向をみると、すべての生涯学習活動において参加意向が参加状況を上回っていることから、今後の生涯学習活動への参加意向が高いことがうかがえる。

特に、「健康づくり・スポーツ」、「趣味・けいこ事」、「学術・教養」、「パソコン・インターネット」、「家庭生活に役立つ技能」、「健康に関すること」では、参加意向が参加状況を大きく上回っており、生涯学習活動への参加者の増加が見込まれる(図表1-2-10-3)。

図表1-2-10-3 生涯学習活動への参加状況と参加意向(全体)



3 市の生涯学習の場・情報・事業などの実態とニーズ

(1) 生涯学習関連施設の利用状況と利用意向

問 11 千葉市にある生涯学習関連施設の利用状況と利用意向についておたずねします。A～Zの施設について、あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

ア 施設の利用状況

1年間に利用した施設の利用状況については、「図書館(38.9%)」が最も高く、次いで「公園・動物園(35.7%)」、「花の美術館、都市緑化植物園(25.5%)」となっている。

性別にみると、男性より女性の利用割合が高い施設が多く、女性の施設利用が多いことがうかがえる。

年代別にみると、35～44歳では「図書館(52.7%)」が全体と比べて高く、5割以上を占めている。25～44歳では「公園・動物園」が4割以上と高くなっている。「花の美術館、都市緑化植物園」は55～64歳で3割以上と高く、「公民館」は65歳以上で高くなっている。「公共スポーツ施設」については20～44歳で高くなっている。

子どもの学齢別にみると、未就学児の親は「公園・動物園」が6割以上と高くなっている。小学生の親は、「図書館」、「公園・動物園」、「公共スポーツ施設」、「千葉市科学館」の順に高くなっており、子どもと一緒に利用できる施設が高くなっている(図表1-3-1-1)。

図表 1-3-1-1 施設の利用状況(全体、性別、年代別、子どもの学齢別)

		図書館	公園・動物公園	花の美術館、都市緑化植物園	公民館	公共スポーツ施設	コミュニティセンター	文化施設	千葉市美術館、市民ギャラリーいなげ	保健所、保健センター	民間のスポーツクラブ、スポーツ施設	千葉市科学館	生涯学習センター	各種学校
全 体 (N=1,052)		38.9	35.7	25.5	21.5	19.7	16.9	15.8	15.0	11.0	10.8	10.6	8.8	6.8
性別	男 性 (n=419)	34.1	35.6	24.8	17.4	19.6	15.0	12.6	14.6	7.6	11.7	10.5	6.9	4.8
	女 性 (n=610)	42.8	36.6	26.2	24.1	20.2	18.9	18.0	15.6	13.6	10.7	11.1	10.2	8.5
年代	2 0 ~ 2 4 歳 (n= 44)	43.2	25.0	9.1	22.7	29.5	20.5	6.8	9.1	6.8	6.8	2.3	2.3	13.6
	2 5 ~ 3 4 歳 (n=134)	38.8	48.5	23.1	14.9	23.9	12.7	6.0	6.7	20.1	9.7	10.4	6.7	10.4
	3 5 ~ 4 4 歳 (n=203)	52.7	45.8	20.2	18.2	30.5	13.3	15.8	10.3	17.2	13.3	23.6	6.4	9.4
	4 5 ~ 5 4 歳 (n=153)	42.5	26.1	22.9	22.2	20.3	17.6	18.3	13.1	3.9	9.2	12.4	8.5	7.2
	5 5 ~ 6 4 歳 (n=217)	38.7	37.3	34.6	23.0	16.1	17.5	17.1	20.7	9.2	16.1	6.0	12.9	4.1
	6 5 歳 以上 (n=289)	27.7	28.7	27.3	25.6	11.4	20.8	19.7	20.1	8.3	7.6	5.9	9.7	4.5
子どもの学齢	未 就 学 児 (n=119)	48.7	60.5	27.7	22.7	26.9	20.2	13.4	9.2	41.2	9.2	22.7	3.4	5.0
	小 学 生 (n= 93)	52.7	48.4	19.4	21.5	41.9	18.3	20.4	10.8	7.5	12.9	32.3	11.8	10.8
	中、高 校 生 (n= 86)	44.2	23.3	14.0	22.1	24.4	10.5	15.1	4.7	9.3	14.0	15.1	4.7	14.0
	大学、専門学校生 (n= 45)	42.2	31.1	31.1	17.8	11.1	17.8	15.6	22.2	8.9	8.9	15.6	11.1	8.9
	勤 め 人 (n=164)	33.5	27.4	25.0	27.4	14.6	22.0	18.3	16.5	7.3	11.6	3.0	15.9	4.9
	就労、就学をしていない(n= 26)	26.9	34.6	26.9	23.1	7.7	19.2	26.9	15.4	7.7	3.8	7.7	3.8	3.8

		民間のカルチャーセンター	郷土博物館	子ども交流館、子育て支援館	ぶいきいきプラザ、ことぶき大学校	加曽利貝塚博物館	女性センター	勤労市民プラザ	少年自然の家	消費生活センター	南部青少年センター	南部児童文化センター	生活技能センター	その他
全 体 (N=1,052)		5.4	4.5	4.5	4.5	3.7	2.3	1.7	1.0	1.0	0.7	0.6	0.3	1.1
性別	男 性 (n=419)	2.9	6.2	3.8	5.3	5.3	1.4	0.7	1.2	1.2	1.4	0.7	0.5	1.2
	女 性 (n=610)	7.0	3.4	4.9	3.9	2.8	3.0	2.5	0.8	1.0	0.0	0.5	0.2	1.0
年代	2 0 ~ 2 4 歳 (n= 44)	0.0	2.3	2.3	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0
	2 5 ~ 3 4 歳 (n=134)	3.7	4.5	12.7	3.7	1.5	0.7	0.7	1.5	1.5	0.7	0.7	0.7	1.5
	3 5 ~ 4 4 歳 (n=203)	7.4	3.0	9.4	2.0	3.4	3.0	2.5	1.0	1.0	0.5	0.5	0.5	1.0
	4 5 ~ 5 4 歳 (n=153)	6.5	5.2	0.0	2.0	3.9	3.9	0.7	1.3	0.7	0.7	0.7	0.0	0.7
	5 5 ~ 6 4 歳 (n=217)	6.0	5.5	1.8	4.1	4.1	2.3	2.8	1.4	0.9	0.5	0.9	0.0	0.0
	6 5 歳 以上 (n=289)	4.5	4.5	1.7	8.0	5.2	2.1	1.7	0.3	1.4	0.7	0.0	0.3	2.4
子どもの学齢	未 就 学 児 (n=119)	2.5	1.7	25.2	2.5	2.5	2.5	0.8	0.8	2.5	0.0	0.0	0.8	2.5
	小 学 生 (n= 93)	6.5	7.5	4.3	3.2	7.5	1.1	2.2	2.2	0.0	1.1	1.1	0.0	1.1
	中、高 校 生 (n= 86)	4.7	5.8	0.0	3.5	4.7	3.5	0.0	1.2	0.0	1.2	1.2	0.0	0.0
	大学、専門学校生 (n= 45)	6.7	6.7	2.2	0.0	0.0	2.2	2.2	2.2	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	勤 め 人 (n=164)	6.1	6.1	2.4	2.4	1.8	3.7	3.7	1.8	1.2	1.2	1.2	0.6	1.8
	就労、就学をしていない(n= 26)	3.8	3.8	3.8	7.7	3.8	3.8	0.0	0.0	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0

イ 施設の利用意向

施設の利用意向については、「生涯学習センター(19.5%)」、「公共スポーツ施設(18.9%)」、「図書館(17.5%)」、「花の美術館、都市緑化植物園(16.1%)」、「千葉市科学館(16.0%)」が高くなっている。

性別にみると、男性では「公共スポーツ施設(23.4%)」、女性では「女性センター(11.1%)」が全体よりも高くなっている。

年代別にみると、20～24歳は「公共スポーツ施設(29.5%)」、「民間のスポーツクラブ、スポーツ施設(29.5%)」、「公園・動物公園(29.5%)」、「南部児童文化センター(29.5%)」が高くなっている。25～34歳では「民間のスポーツクラブ、スポーツ施設(29.9%)」が高く、次に「図書館(27.6%)」となっている。25～44歳で「公共スポーツ施設」の利用意向が高い。45歳以上は「生涯学習センター」が最も高くなっている。

「コミュニティセンター」、「公民館」は、年代が上がるほど、利用意向が高くなる傾向にあり、「民間のスポーツクラブ、スポーツ施設」については、年代が若いほど利用意向が高くなる傾向にある。

子どもの学齢別にみると、子どもの年齢が若いほど、「公共スポーツ施設」や「民間のスポーツクラブ、スポーツ施設」の利用意向が高くなる傾向にある(図表1-3-1-2)。

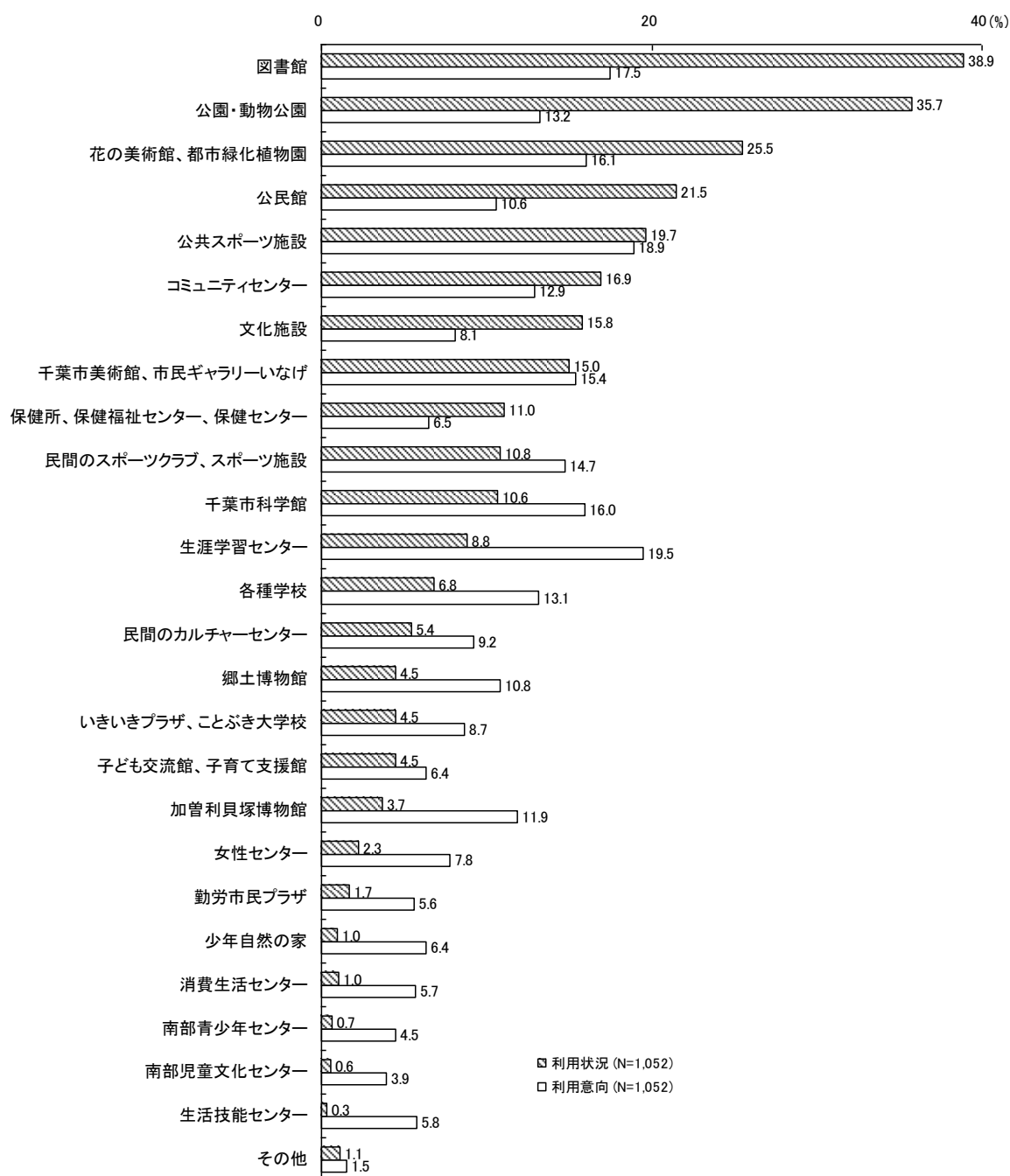
図表 1-3-1-2 施設の利用意向(全体、性別、年代別、子どもの学齢別)

		生涯学習センター	公共スポーツ施設	図書館	花の美術館、都市緑化植物園	千葉市科学館	千葉市美術館、市民ギャラリーいなげ	民間のスポーツクラブ、スポーツ施設	公園・動物公園	各種学校	コミュニティセンター	加曽利貝塚博物館	郷土博物館	公民館
全 体 (N=1,052)		19.5	18.9	17.5	16.1	16.0	15.4	14.7	13.2	13.1	12.9	11.9	10.8	10.6
性別	男 性 (n=419)	19.1	23.4	19.6	14.6	17.9	17.4	16.5	12.6	12.6	12.9	12.6	12.2	9.3
	女 性 (n=610)	20.0	16.4	16.4	17.7	15.2	14.4	13.8	14.1	13.9	13.4	11.6	10.3	11.6
年代	20～24歳 (n=44)	18.2	29.5	13.6	22.7	25.0	18.2	29.5	29.5	11.4	11.4	20.5	18.2	4.5
	25～34歳 (n=134)	16.4	34.3	27.6	19.4	20.9	20.1	29.9	13.4	13.4	18.7	16.4	13.4	11.2
	35～44歳 (n=203)	23.2	22.7	18.7	22.2	24.6	17.7	17.2	12.8	18.2	12.8	16.3	16.7	10.8
	45～54歳 (n=153)	30.1	22.9	21.6	18.3	20.9	19.0	15.0	24.2	20.9	18.3	13.7	10.5	15.0
	55～64歳 (n=217)	24.0	16.1	20.7	17.1	14.3	19.8	11.5	11.5	13.4	13.8	10.6	8.3	13.4
	65歳以上 (n=289)	10.0	7.6	8.0	7.6	5.2	6.6	5.9	6.9	5.9	7.6	5.5	6.9	6.6
子どもの学齢	未就学児 (n=119)	21.0	35.3	27.7	24.4	31.1	25.2	25.2	19.3	24.4	20.2	22.7	21.8	16.8
	小学生 (n=93)	30.1	17.2	11.8	19.4	17.2	17.2	21.5	8.6	15.1	14.0	14.0	14.0	9.7
	中、高校生 (n=86)	24.4	17.4	16.3	19.8	22.1	22.1	10.5	18.6	19.8	18.6	18.6	15.1	16.3
	大学、専門学校生 (n=45)	17.8	22.2	20.0	17.8	8.9	20.0	17.8	11.1	17.8	15.6	13.3	11.1	13.3
	勤め人 (n=164)	17.7	17.1	15.2	14.6	13.4	14.0	12.8	11.6	11.0	15.9	7.9	7.9	9.8
	就労、就学をしていない (n=26)	15.4	23.1	19.2	23.1	11.5	26.9	11.5	3.8	15.4	15.4	7.7	11.5	15.4

		民間のカルチャーセンター	ぶきいき大学校	文化施設	女性センター	保健所、保健福祉センター	子ども交流館、子育て支援館	少年自然の家	生活技能センター	勤労市民プラザ	消費生活センター	南部青少年センター	南部児童文化センター	その他
全 体 (N=1,052)		9.2	8.7	8.1	7.8	6.5	6.4	6.4	5.8	5.6	5.7	4.5	3.9	1.5
性別	男 性 (n=419)	8.8	9.1	9.5	3.3	6.4	4.5	6.2	5.7	6.4	6.4	4.5	4.1	1.9
	女 性 (n=610)	9.8	8.7	7.2	11.1	6.6	7.9	6.7	6.1	5.1	5.2	4.6	3.9	1.3
年代	20～24歳 (n=44)	11.4	2.3	2.3	9.1	4.5	9.1	9.1	6.8	4.5	9.1	6.8	29.5	0.0
	25～34歳 (n=134)	11.9	8.2	14.2	9.0	6.0	14.9	11.2	8.2	8.2	6.7	10.4	9.0	3.7
	35～44歳 (n=203)	13.8	6.9	6.9	11.8	5.9	11.8	13.8	7.4	7.9	6.4	6.4	2.0	2.5
	45～54歳 (n=153)	9.8	6.5	9.8	9.8	8.5	4.6	5.9	5.9	7.2	5.2	2.6	4.6	2.0
	55～64歳 (n=217)	8.3	13.4	10.1	9.2	6.5	3.7	2.8	6.5	4.1	5.5	4.1	1.4	0.0
	65歳以上 (n=289)	5.2	9.0	4.8	2.4	6.6	1.4	1.7	3.5	3.5	4.8	1.4	0.0	1.0
子どもの学齢	未就学児 (n=119)	20.2	11.8	11.8	14.3	6.7	25.2	22.7	10.9	12.6	10.1	12.6	11.8	4.2
	小学生 (n=93)	9.7	8.6	5.4	11.8	9.7	7.5	11.8	8.6	8.6	5.4	6.5	5.4	3.2
	中、高校生 (n=86)	10.5	2.3	11.6	10.5	7.0	3.5	7.0	4.7	4.7	4.7	2.3	2.3	1.2
	大学、専門学校生 (n=45)	8.9	15.6	6.7	13.3	8.9	6.7	4.4	8.9	8.9	11.1	4.4	4.4	0.0
	勤め人 (n=164)	7.9	12.8	7.3	4.9	5.5	1.8	3.0	5.5	4.9	6.7	2.4	1.8	0.0
	就労、就学をしていない (n=26)	3.8	11.5	11.5	11.5	7.7	3.8	3.8	3.8	7.7	3.8	7.7	3.8	3.8

施設の利用状況と利用意向をみると、「図書館」、「公園、動物公園」、「花の美術館、都市緑化植物園」、「公民館」は利用意向を大きく上回る利用状況となっている。一方、「生涯学習センター」、「千葉市科学館」、「郷土博物館」、「加曽利貝塚博物館」などは、利用状況を上回る利用意向となっており、今後、利用者が増加する見込みがある(図表1-3-1-3)。

図表1-3-1-3 施設の利用状況と利用意向(全体)



(2) 施設を利用する理由

問 12 問 11 で生涯学習関連施設をこの1年間に利用したことのある、または今後利用してみたいと回答した方におたずねします。
その施設を利用する(利用してみたい)理由は何ですか。あてはまる番号に3つまで○印をつけてください。

施設を利用する理由については、「自宅から近いから(49.3%)」が最も高く、次いで「料金がかからないから、安いから(44.3%)」、「施設・設備が充実しているから(27.7%)」となっている。

年代別にみると、年代が上がるほど、「利用時間が希望に合うから」、「講座・イベントなどの内容がよいから」が高くなる傾向がある。20～24歳では「施設・設備が充実しているから(34.1%)」が全体より高くなっている。

居住地区別にみると、中央区と美浜区では「自宅から近いから」が全体より高くなっている。稲毛区と若葉区では「講座・イベントの内容がよいから」、「施設・設備が充実しているから」が高くなっている(図表1-3-2)。

図表1-3-2 施設を利用する理由(全体、性別、年代別、居住地区別)

		(%)									
		自宅から近いから	料金がかからないから	施設・設備が充実しているから	講座・イベントなどの内容がよいから	利用時間が希望に合うから	交通の便がよいから	予約がしやすいから	その他	とくにない	無回答
全	体 (N=919)	49.3	44.3	27.7	15.5	14.4	11.8	2.6	7.6	8.6	5.9
性別	男 性 (n=361)	47.9	42.7	30.2	13.9	13.0	10.2	1.7	8.6	11.6	6.6
	女 性 (n=542)	50.4	45.8	26.2	16.4	15.1	12.9	3.1	7.0	6.3	5.4
年代	20～24歳 (n=44)	51.2	39.0	34.1	7.3	0.0	4.9	0.0	14.6	7.3	4.9
	25～34歳 (n=134)	47.7	46.9	26.6	10.2	7.8	6.3	1.6	7.0	13.3	2.3
	35～44歳 (n=203)	45.3	50.5	32.6	14.2	10.0	8.4	3.2	8.9	7.4	4.2
	45～54歳 (n=153)	50.7	42.9	27.1	17.9	6.4	10.7	0.7	9.3	12.9	4.3
	55～64歳 (n=217)	49.7	44.2	28.4	17.3	20.3	14.7	0.5	8.6	7.6	6.1
	65歳以上 (n=289)	52.8	39.8	23.1	17.1	25.0	17.6	6.5	3.2	5.1	10.2
居住地区	中央区 (n=163)	54.6	44.2	27.0	9.8	13.5	13.5	3.1	8.0	7.4	6.1
	花見川区 (n=192)	46.4	47.4	23.4	15.1	14.1	9.9	1.6	5.7	8.9	5.7
	稲毛区 (n=156)	48.7	42.9	33.3	19.9	12.8	12.2	1.9	11.5	5.1	5.1
	若葉区 (n=139)	44.6	41.7	33.1	19.4	16.5	12.2	2.2	3.6	10.1	4.3
	緑区 (n=114)	45.6	50.9	28.1	13.2	7.9	10.5	5.3	8.8	7.9	4.4
	美浜区 (n=142)	57.0	39.4	23.9	13.4	21.1	12.7	2.8	7.7	6.3	9.2

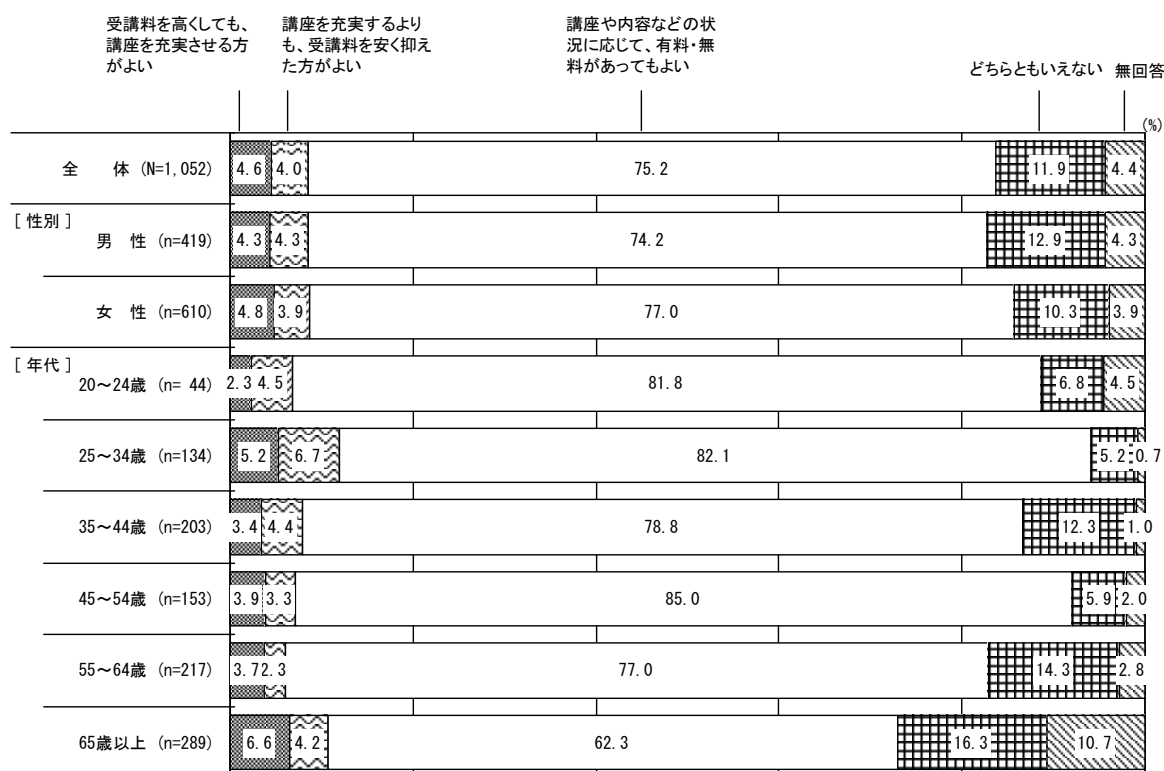
(3) 講座受講料についての考え方

問 13 千葉市の生涯学習施設で実施する講座の受講料について、あなたのお考えにもっとも近いものはつぎのうちどれですか。あてはまる番号に1つ○印をつけてください。

講座受講料についての考え方は、「講座や内容などの状況に応じて、有料・無料があってもよい」が約8割を占めて最も高くなっている。

年代別にみると、20～34歳では「講座や内容などの状況に応じて、有料・無料があってもよい」が全体より高くなっている。一方、65歳以上では「講座や内容などの状況に応じて、有料・無料があってもよい」が約6割で全体より低くなっている(図表1-3-3)。

図表1-3-3 講座受講料についての考え方(全体、性別、年代別)



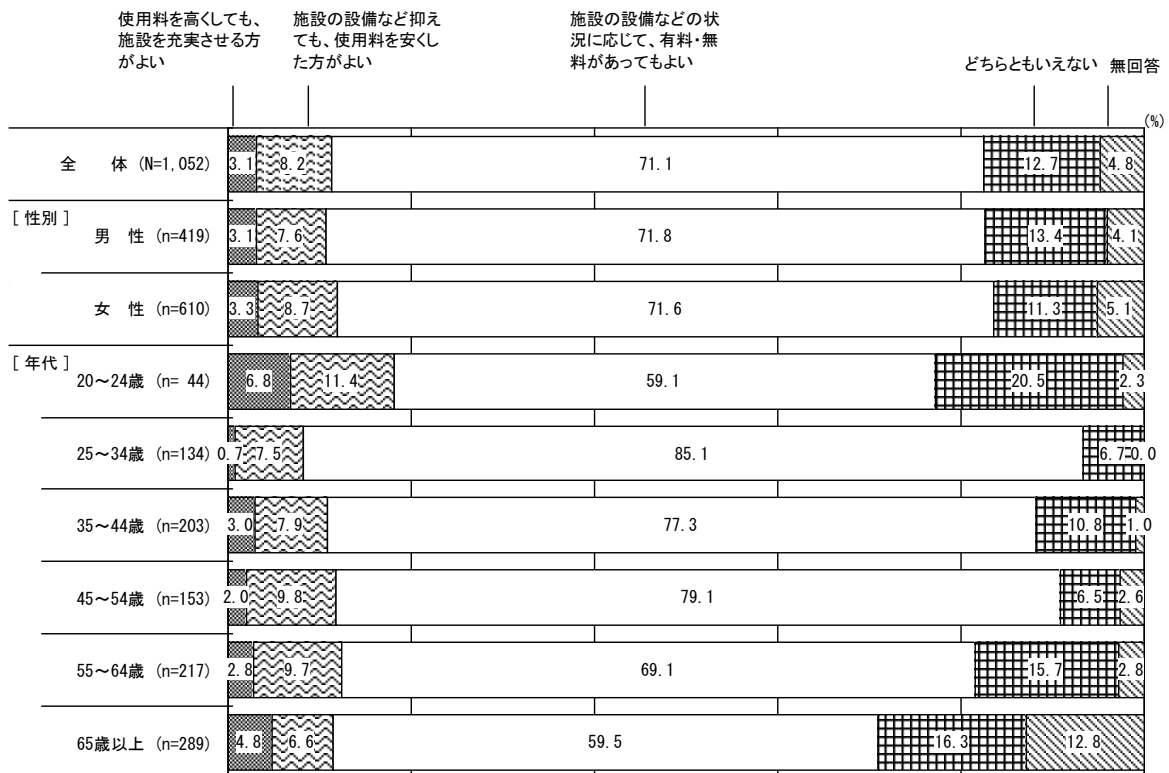
(4) 施設使用料についての考え方

問 14 千葉市の生涯学習施設の使用料について、あなたのお考えにもっとも近いものはつぎのうちどれですか。あてはまる番号に1つ〇印をつけてください。

施設使用料についての考え方は、「施設の設備などの状況に応じて、有料・無料があってもよい(71.1%)」が約7割を占めて最も高くなっている。

年代別にみると、25～54歳では「施設の設備などの状況に応じて、有料・無料があってもよい」が全体より高くなっている。一方、20～24歳と65歳以上では「施設の設備などの状況に応じて、有料・無料があってもよい」が約6割で全体より低くなっている(図表1-3-4)。

図表1-3-4 施設使用料についての考え方(全体、性別、年代別)



(5) 施設への要望

問 15 あなたは、千葉市の生涯学習関連施設について、市はどのような点に力を入れるとよいと思いますか。つぎのうち、あなたのお考えにもっとも近いものの番号に3つまで○印をつけてください。

施設への要望については、「生涯学習に関する情報提供を充実する(41.7%)」が最も高く、次いで「誰でも気軽に参加できる行事やイベントをふやす(40.9%)」、「夜間や休日でも利用できるようにする(37.5%)」、「既存の施設・設備を充実する(33.6%)」となっている。

性別にみると、男性では「生涯学習に関する情報提供を充実する(43.4%)」が最も高くなっている。女性では「誰でも気軽に参加できる行事やイベントをふやす(42.3%)」が最も高くなっている。

年代別にみると、20～54歳では「夜間や休日でも利用できるようにする」が全体より高くなっている。20～24歳では「誰でも気軽に参加できる行事やイベントをふやす(52.3%)」、25～44歳では「子どもの一時預かりを充実する」、35～44歳では「学校の開放施設をふやす(15.8%)」、45～54歳では「生涯学習に関する情報提供を充実する(48.4%)」、55～64歳では「既存の施設・設備を充実する(37.8%)」、65歳以上では「身近な場所に施設をつくる(37.4%)」が高くなっている。年代によって施設への要望が異なっている。

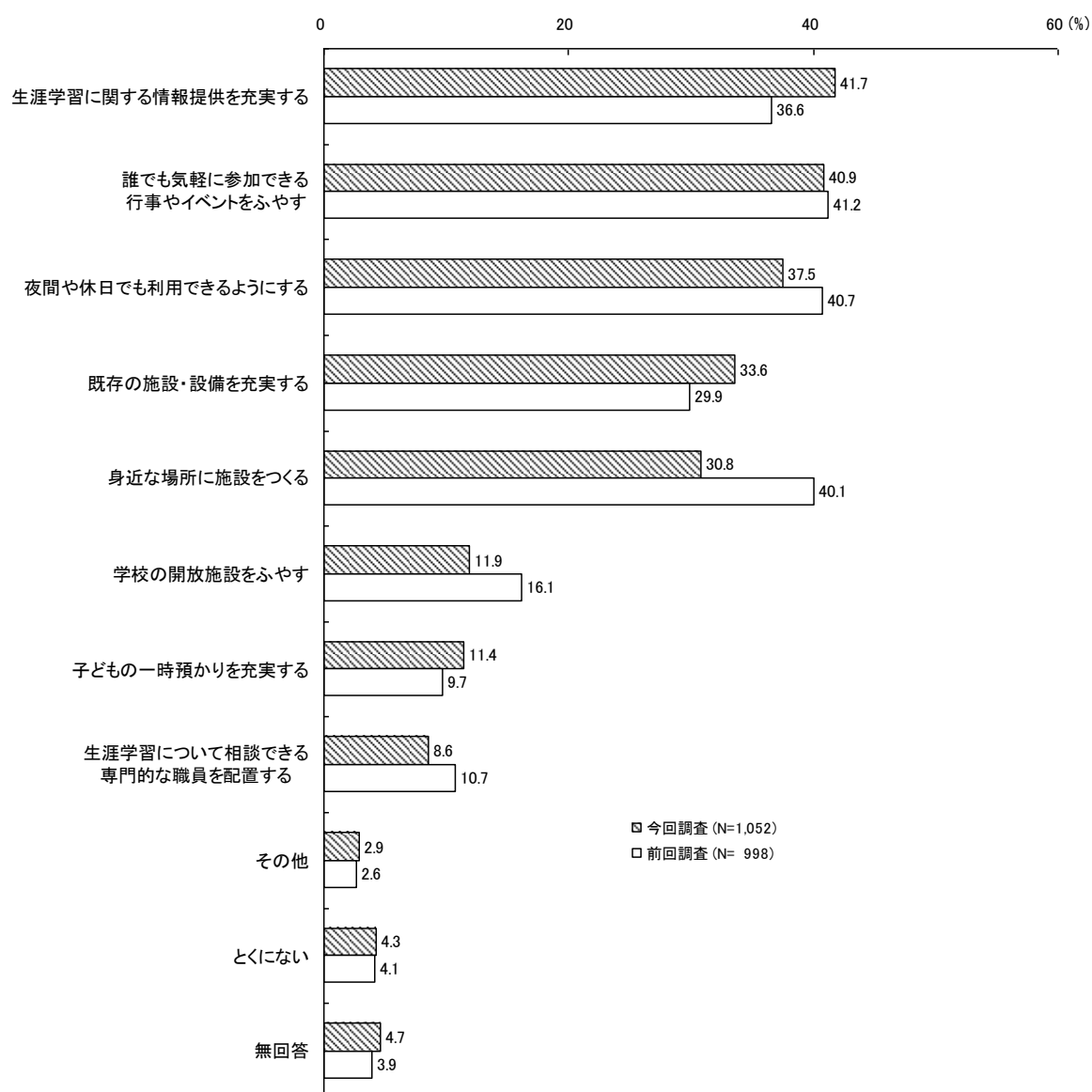
居住地区別にみると、「生涯学習に関する情報提供を充実する」は稲毛区で、「身近な場所に施設をつくる」は花見川区、緑区、美浜区で、「誰でも気軽に参加できる行事やイベントをふやす」は稲毛区、若葉区で、「夜間や休日でも利用できるようにする」は中央区で、「既存の施設・設備を充実する」は美浜区で高くなっている(図表1-3-5-1)。

図表1-3-5-1 施設への要望(全体、性別、年代別、居住地区別)

		報生	をき誰	で夜	充既	つ身	や学	を子	員談	生	そ	と	無
		提供	ふるも	できる	実存	身近	学校の	子ども	をで	涯	他	く	回
		学習	や行	や休	すの	な場	の開	の一時	配置	学		に	答
		を充	事や	日	施設	所に	放	預	する	習		い	
		実関	イに	も利	・設	に施	施	かり	専	つ		な	
		する	ベ	用	備	設	設	情	門	的		い	
		情	ン	す	を	を	を		的	な		い	
			ト	る					な	相			
			で	す					て				
			加	る					職				
			参	も					相				
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									
			で	も									
			参	も									
			加	も									
			ト	も									

施設への要望について、前回調査(平成17年)と比較すると、「生涯学習に関する情報提供を充実する」が5.1ポイント、「既存の施設・設備を充実する」が3.7ポイント増加している。一方、「夜間や休日でも利用できるようにする」が3.2ポイント、「身近な場所に施設をつくる」が9.3ポイント、「学校の開放施設をふやす」が4.2ポイント減少している。前回4位の「生涯学習に関する情報提供を充実する」が1位となっている。5年前と比べて、施設への要望に変化があることがうかがえる(図表1-3-5-2)。

図表1-3-5-2 施設への要望の推移(全体/今回調査、前回調査)



(6) 学習情報源

問 16 あなたは、千葉市の生涯学習に関する情報をどのようにして手に入れていますか。あてはまる番号にいくつでも○印をつけてください。

学習情報源については、「市政だより(67.3%)」が約7割を占めて最も高くなっている。次いで「知り合いや仲間から聞く(20.2%)」、「パソコン(インターネットなど)(15.7%)」、「自治会からの連絡など(15.3%)」となっている。

性別にみると、男性では「パソコン(インターネットなど)(20.0%)」、「家族に聞く(5.0%)」が全体より高くなっている。女性では「市政だより(70.7%)」、「知り合いや仲間から聞く(25.4%)」が全体より高くなっている。

年代別にみると、「パソコン(インターネットなど)」は年代が若いほど高くなる傾向がある。55歳以上では「市政だより」が7割以上を占めて高くなっている。55～64歳では「知り合いや仲間から聞く(23.5%)」、「自治会からの連絡など(19.8%)」、「コミュニティセンター・公民館報(18.4%)」が全体より高く、様々な媒体から情報を得ている。「とくに情報を得ていない」は年代が若いほど、高くなる傾向にある(図表1-3-6-1)。

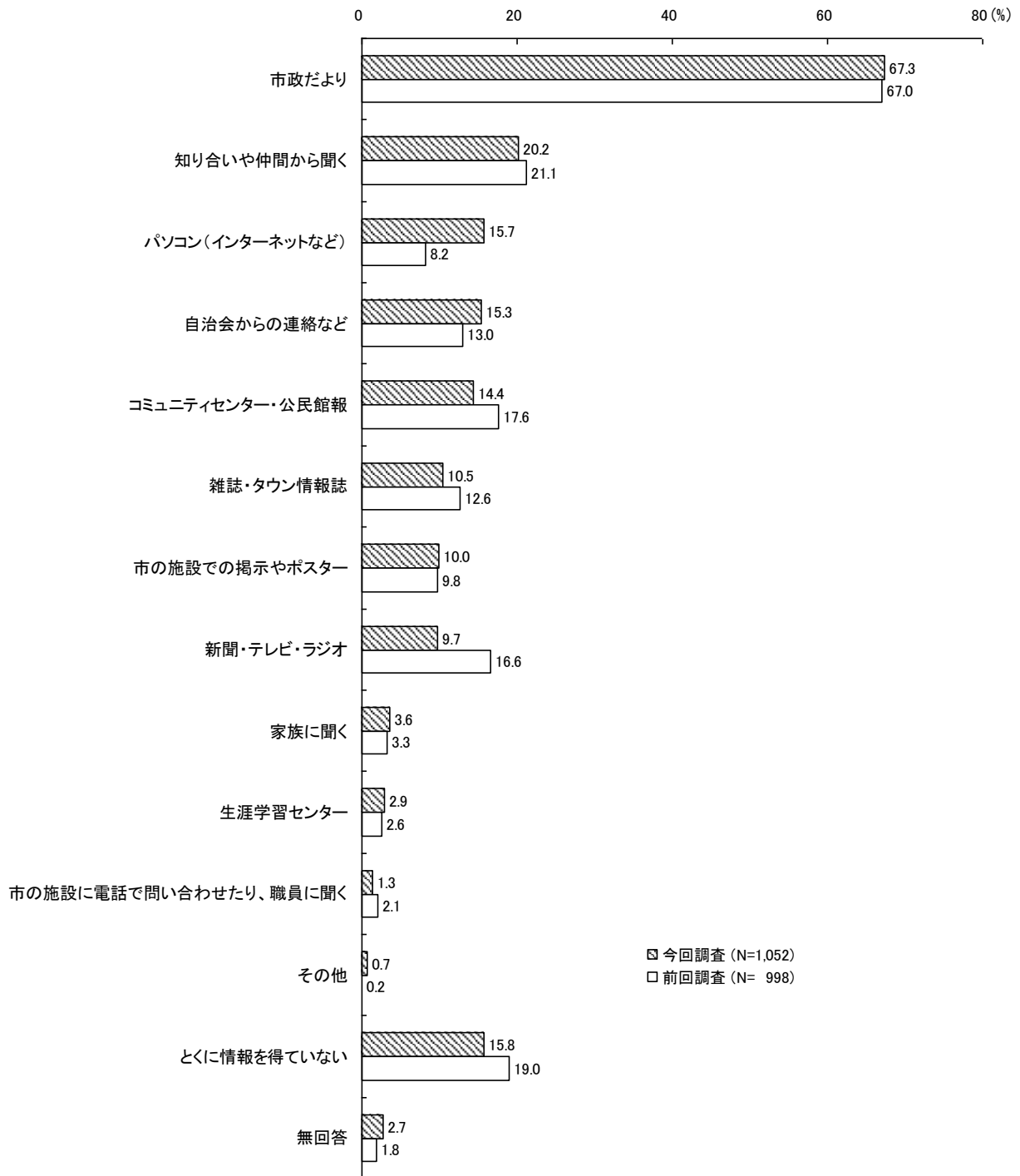
図表 1-3-6-1 学習情報源(全体、性別、年代別)

(%)

	市政だより	知り合いや仲間から聞く	パソコン(インターネットなど)	自治会からの連絡など	コミュニティセンター・公民館報	雑誌・タウン情報誌	市の施設での掲示やポスター	新聞・テレビ・ラジオ	家族に聞く	生涯学習センター	市の施設に電話で問い合わせたり、職員に聞く	その他	とくに情報を得ていない	無回答
全 体 (N=1,052)	67.3	20.2	15.7	15.3	14.4	10.5	10.0	9.7	3.6	2.9	1.3	0.7	15.8	2.7
性別														
男 性 (n=419)	63.0	14.6	20.0	15.5	14.1	8.8	9.5	9.1	5.0	2.9	1.4	0.0	19.1	0.7
女 性 (n=610)	70.7	25.4	13.3	15.1	14.6	12.0	10.2	10.5	2.8	3.0	1.3	1.1	13.4	3.6
年代														
20～24歳 (n=44)	34.1	18.2	34.1	4.5	0.0	9.1	13.6	6.8	13.6	4.5	0.0	0.0	34.1	0.0
25～34歳 (n=134)	50.0	15.7	20.9	6.0	6.0	16.4	5.2	6.7	3.7	1.5	0.7	1.5	23.9	0.0
35～44歳 (n=203)	66.0	17.7	25.6	10.8	10.3	9.9	6.9	6.4	4.9	1.0	1.0	2.0	16.7	0.5
45～54歳 (n=153)	68.0	14.4	17.6	18.3	11.1	15.7	8.5	9.2	0.7	4.6	0.7	0.7	17.6	0.7
55～64歳 (n=217)	77.4	23.5	10.6	19.8	18.4	11.5	12.4	11.5	4.1	3.7	2.3	0.0	12.0	1.8
65歳以上 (n=289)	75.1	26.6	6.6	19.7	22.5	4.8	12.5	12.8	2.4	3.1	1.7	0.0	9.7	6.9

学習情報源について、前回調査(平成 17 年)と比較すると、前回と同様に「市政だより」が最も多くなっている。「新聞・テレビ・ラジオ」は、前回 16.6%から今回 9.7%と減少している。一方、「パソコン(インターネットなど)」は前回調査(8.2%)からほぼ倍増(15.7%)となっている。また、「とくに情報を得ていない」は減少している。生涯学習に関する情報源が変化していることがうかがえる(図表 1-3-6-2)。

図表 1-3-6-2 学習情報源の推移(全体/今回調査、前回調査)



(7) パソコン講座の利用意向

問 17 千葉県では、生涯学習センターや公民館でパソコン講座を実施しています。あなたは、今後パソコン講座を利用したいと思いますか。つぎのうちあてはまる番号に1つ〇印をつけてください。

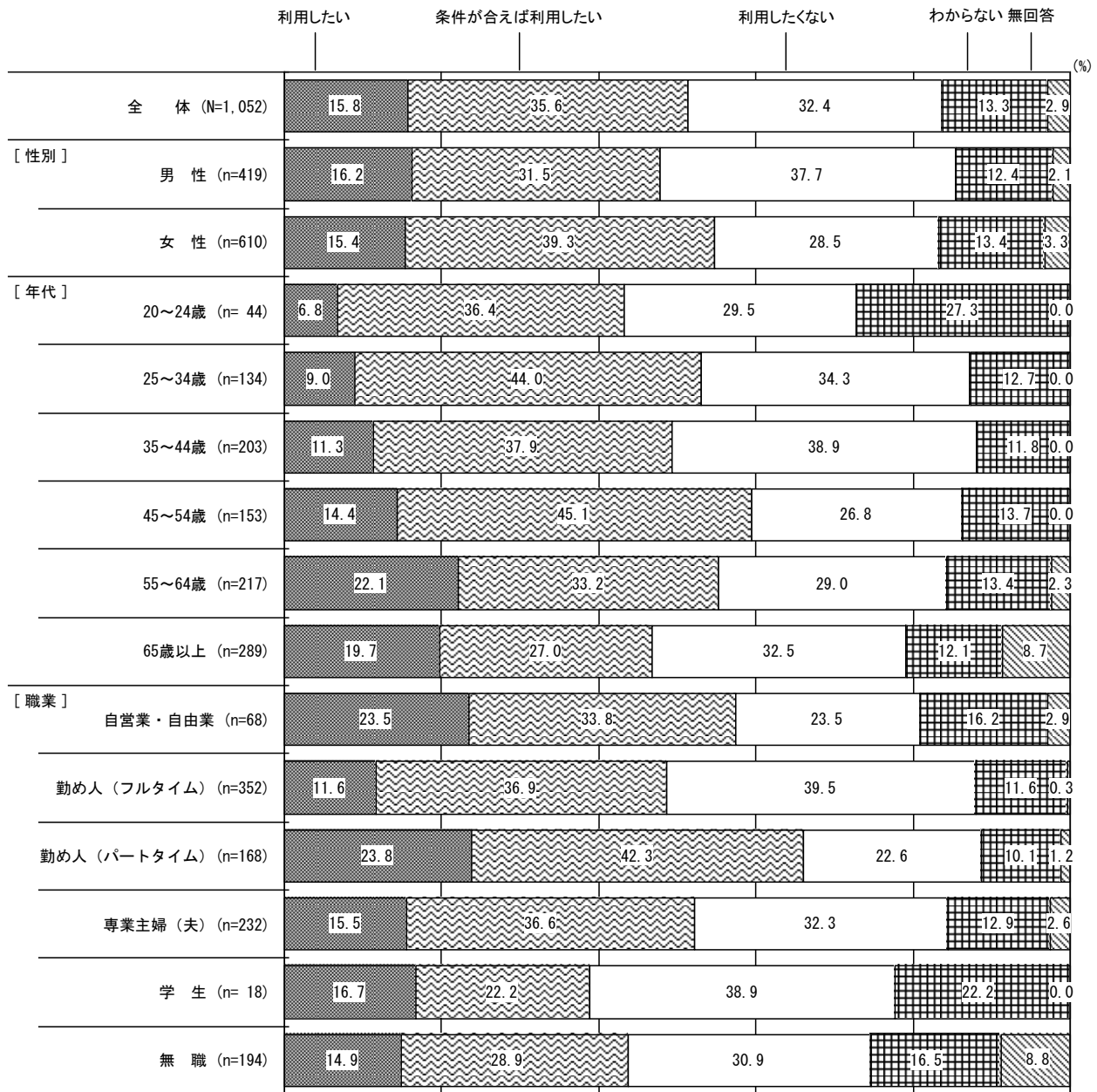
パソコン講座の利用意向については、「利用したい」は 15.8%、「条件が合えば利用したい」は 35.6%、「利用したくない」は 32.4%となっている。「利用したい」と「条件が合えば利用したい」を合わせた《利用意向層》は半数以上を占めている。

性別にみると、女性の《利用意向層》は 54.7%で、男性より高くなっている。

年代別にみると、年代が上がるほど「利用したい」が高くなる傾向がある。

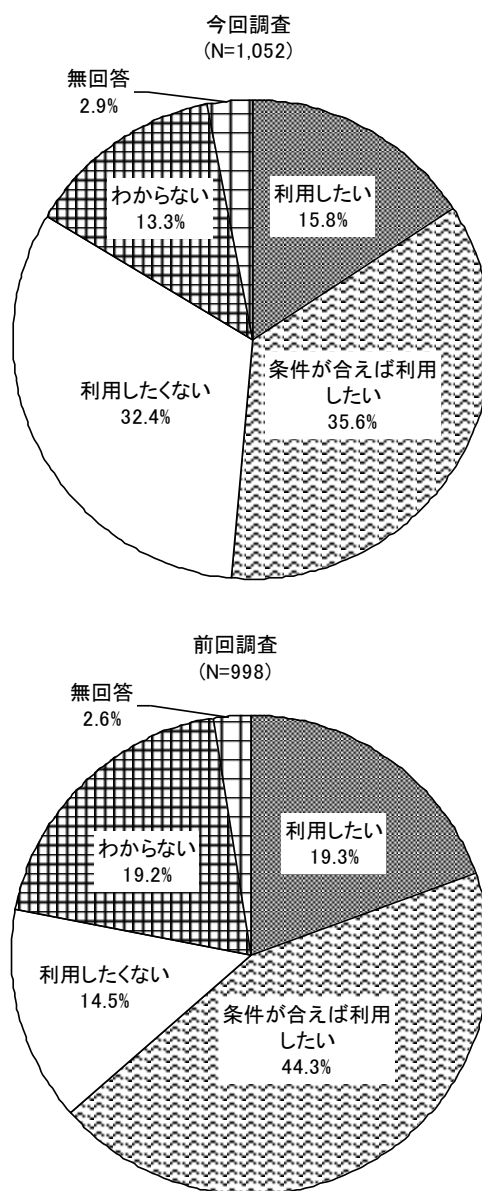
職業別にみると、勤め人（パートタイム）では《利用意向層》が 66.1%で、全体より高くなっている。一方、学生では《利用意向層》が 38.9%で、全体より低くなっている(図表 1-3-7-1)。

図表 1-3-7-1 パソコン講座の利用意向(全体、性別、年代別、職業別)



パソコン講座の利用意向について、前回調査(平成17年)と比較すると、「利用したい」、「条件が合えば利用したい」の《利用意向層》は減少し、「利用したくない」が増加している。パソコン利用の機会の増加や知識の普及などの要因が考えられる(図表1-3-7-2)。

図表1-3-7-2 パソコン講座の利用意向の推移(全体/今回調査、前回調査)



(8) 情報通信技術(I T)学習において大切なこと

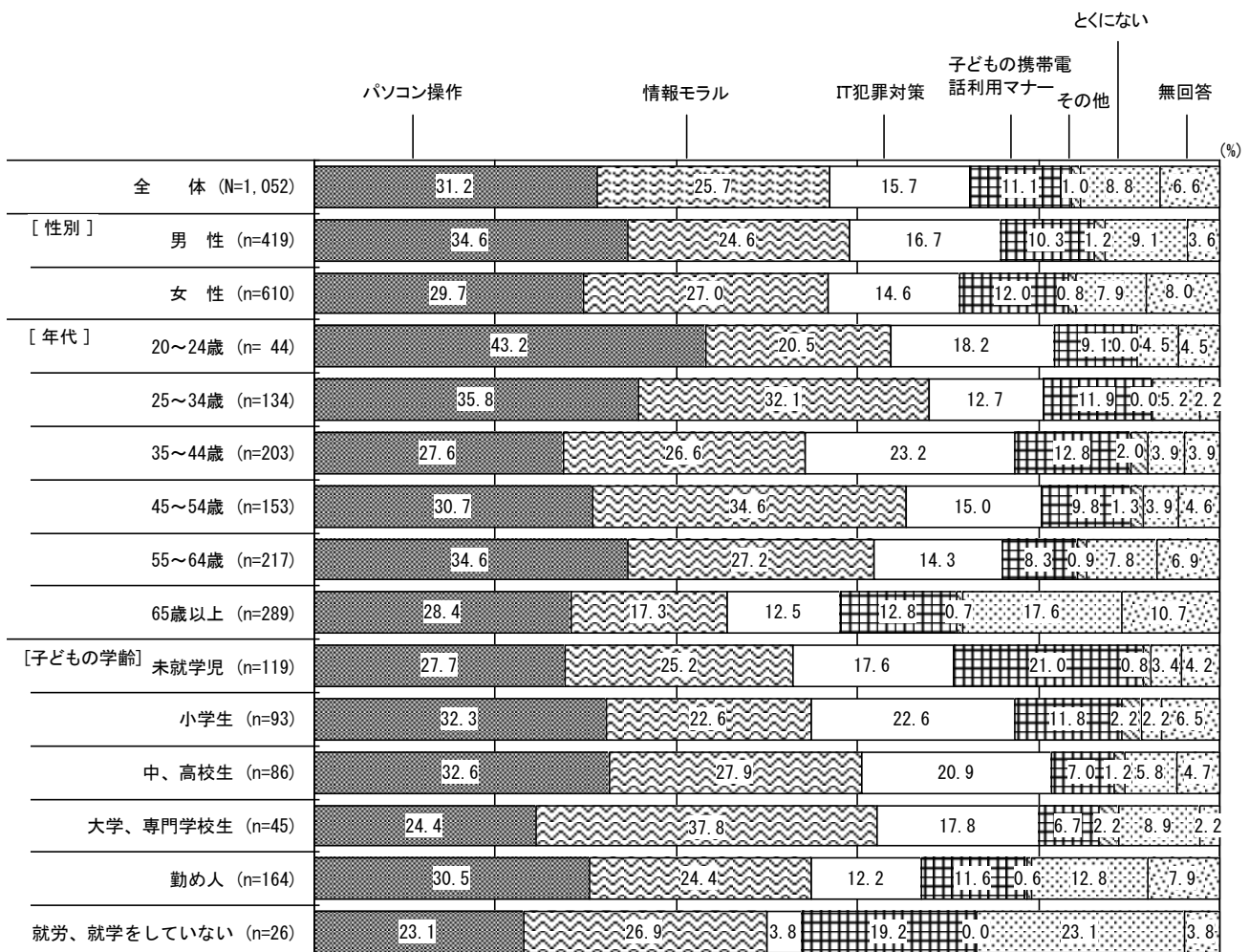
問 18 あなたは、情報通信技術(I T)に関して、どのような学習が大切だと思いますか。つぎのうちあてはまる番号に1つ○印をつけてください。

情報通信技術学習において大切なことについては、「パソコン操作(31.2%)」が最も高く、次いで「情報モラル(25.7%)」、「I T犯罪対策(15.7%)」、「子どもの携帯電話利用マナー(11.1%)」となっている。

性別にみると、男性では「パソコン操作(34.6%)」、「I T犯罪対策(16.7%)」が全体より高く、女性では「情報モラル(27.0%)」、「子どもの携帯電話利用マナー(12.0%)」が全体より高くなっている。

年代別にみると、20～24歳では「パソコン操作(43.2%)」が全体より高く、「情報モラル(20.5%)」は低くなっている。45～54歳では「情報モラル(34.6%)」が最も高くなっている(図表1-3-8)。

図表1-3-8 情報通信技術(I T)学習において大切なこと
(全体、性別、年代別、職業別)



(9) 事業への要望

問 19 あなたは、千葉市の生涯学習事業について、市はどのような点に力を入れるとよいと思いますか。つぎのうち、あなたのお考えにもっとも近いものの番号に3つまで○印をつけてください。

事業への要望については、「文化・芸能を鑑賞する事業をふやす(38.4%)」が最も高く、次いで「団体やグループ・サークルなどの自主的な活動を支援する(26.3%)」、「学んだ成果が地域の活動に生かせる機会をふやす(26.0%)」となっている。

性別にみると、男性では「団体やグループ・サークルなどの自主的な活動を支援する(29.8%)」、「大学などとの連携による高度で専門的な学習機会を提供する(25.5%)」が、女性では「文化・芸能を鑑賞する事業をふやす(42.6%)」が全体より高くなっている。

年代別にみると、年代が若いほど「資格取得セミナー等職業能力の向上につながる講座をふやす」が高くなる傾向がある。55歳以上では「文化・芸能を鑑賞する事業をふやす」が4割以上と高くなっている。年代によって事業への要望が異なることがうかがえる(図表1-3-9-1)。

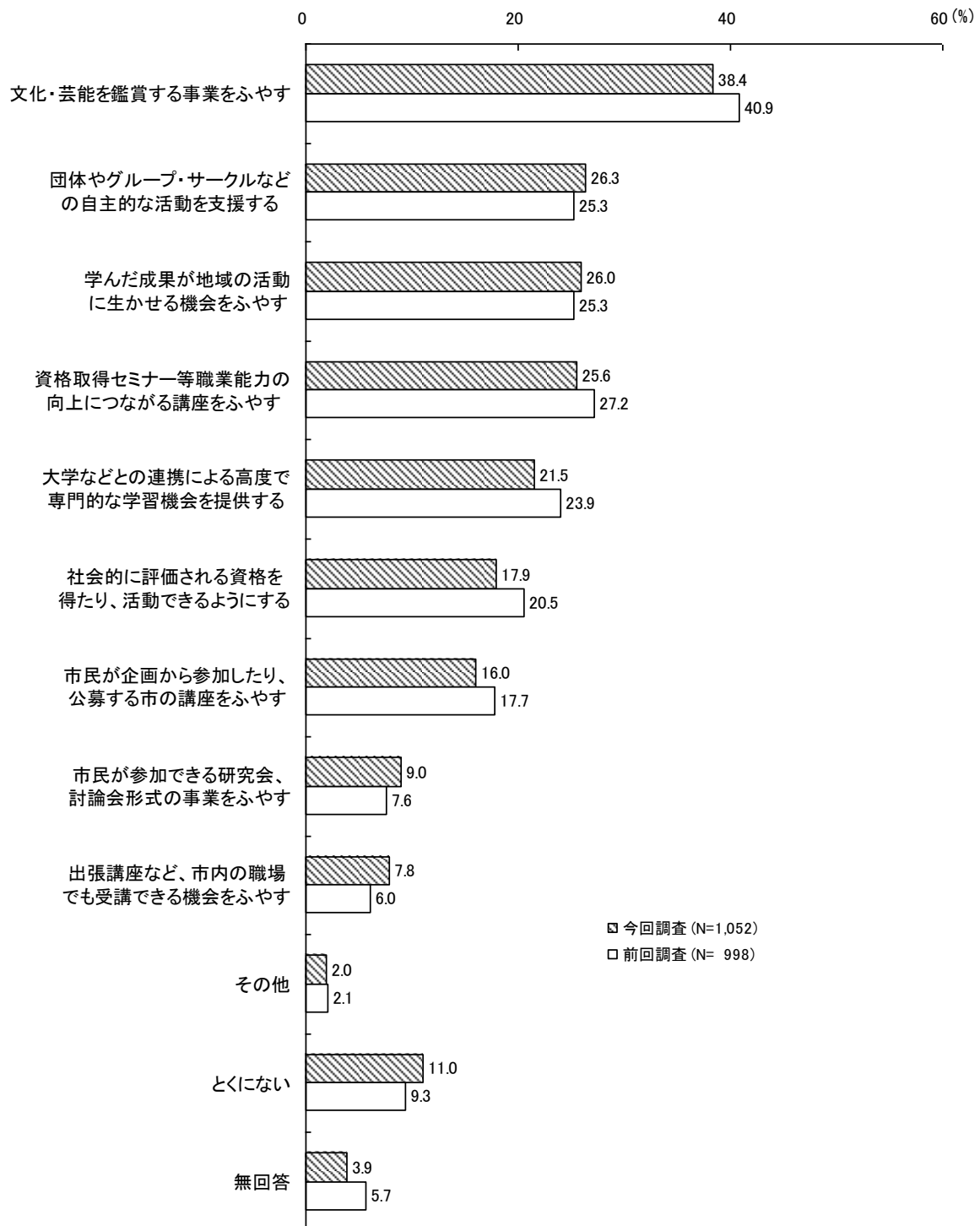
図表1-3-9-1 事業への要望(全体、性別、年代別)

(%)

	ふ文化・芸能を鑑賞する事業を	ど団体やグループ・サークルなどの自主的な活動を支援する	か学んだ成果が地域の活動に生かせる機会をふやす	すの資格取得につながる講座をふやす	るで専門的な学習機会を提供する	たり社会的に評価される資格を得	公市民が企画から参加したり、	論市民が参加できる研究会、討	も出張講座など、市内の職場で	その他	とくにない	無回答
全 体 (N=1,052)	38.4	26.3	26.0	25.6	21.5	17.9	16.0	9.0	7.8	2.0	11.0	3.9
性別												
男 性 (n=419)	33.4	29.8	25.8	21.7	25.5	13.8	16.5	12.4	9.5	2.6	11.7	2.9
女 性 (n=610)	42.6	24.3	26.4	28.9	18.9	20.8	16.1	6.9	6.7	1.5	10.2	3.9
年代												
20～24歳 (n=44)	29.5	18.2	22.7	52.3	22.7	34.1	15.9	4.5	6.8	0.0	11.4	0.0
25～34歳 (n=134)	35.8	19.4	17.9	42.5	23.1	29.9	14.9	5.2	7.5	4.5	6.0	0.7
35～44歳 (n=203)	37.9	23.6	22.2	34.0	23.6	22.2	15.3	5.9	5.4	3.9	7.9	2.5
45～54歳 (n=153)	36.6	33.3	29.4	29.4	26.8	24.8	13.7	7.2	10.5	1.3	5.2	2.0
55～64歳 (n=217)	41.5	26.3	37.8	20.3	23.5	13.4	16.1	11.5	7.4	0.5	11.1	2.8
65歳以上 (n=289)	41.2	29.4	22.8	10.4	14.2	6.6	18.3	13.1	9.0	1.0	18.0	8.0

事業への要望について、前回調査(平成 17 年)と比較すると、大きな変化はなく、「文化・芸能を鑑賞する事業をふやす」が引き続き要望が高い。次いで「団体やグループ・サークルなどの自主的な活動を支援する」、「学んだ成果が地域の活動に生かせる機会をふやす」、「資格取得セミナー等職業能力の向上につながる講座をふやす」となっている(図表 1-3-9-2)。

図表 1-3-9-2 事業への要望の推移(全体/今回調査、前回調査)



4 今後の生涯学習活動における重点課題

(1) 子どもの教育について家庭が担う役割

問 20 あなたは、子どもの教育について、家庭が担う役割で重要なことはどのようなことだと思いますか。つぎのうち、あなたのお考えにもっとも近いものの番号に3つまで○印をつけてください。

子どもの教育について家庭が担う役割については、「しつけやマナーを教えること(79.4%)」が最も高く、次いで「豊かな心を育むこと(53.8%)」、「健康な体をつくること(39.1%)」となっている。

性別にみると、男性では「しつけやマナーを教えること(83.1%)」、「価値観や生き方を伝えること(37.7%)」が、女性では「健康な体をつくること(44.9%)」が全体より高くなっている。

年代別にみると、20～34歳では、「悩みや相談ごとに対応すること」が全体より高くなっている。

子どもの学齢別にみると、未就学児と小学生の親では、「さまざまな危険から子どもを守ること(未就学児：23.5%、小学生：25.8%)」が全体より高くなっている。大学・専門学校生の親では「健康な体をつくること(48.9%)」が全体より高くなっている。

性別、年代、子どもの学齢を問わず、しつけやマナーを教えることが、教育について家庭が担う役割で重要と考えていることがうかがえる(図表1-4-1-1)。

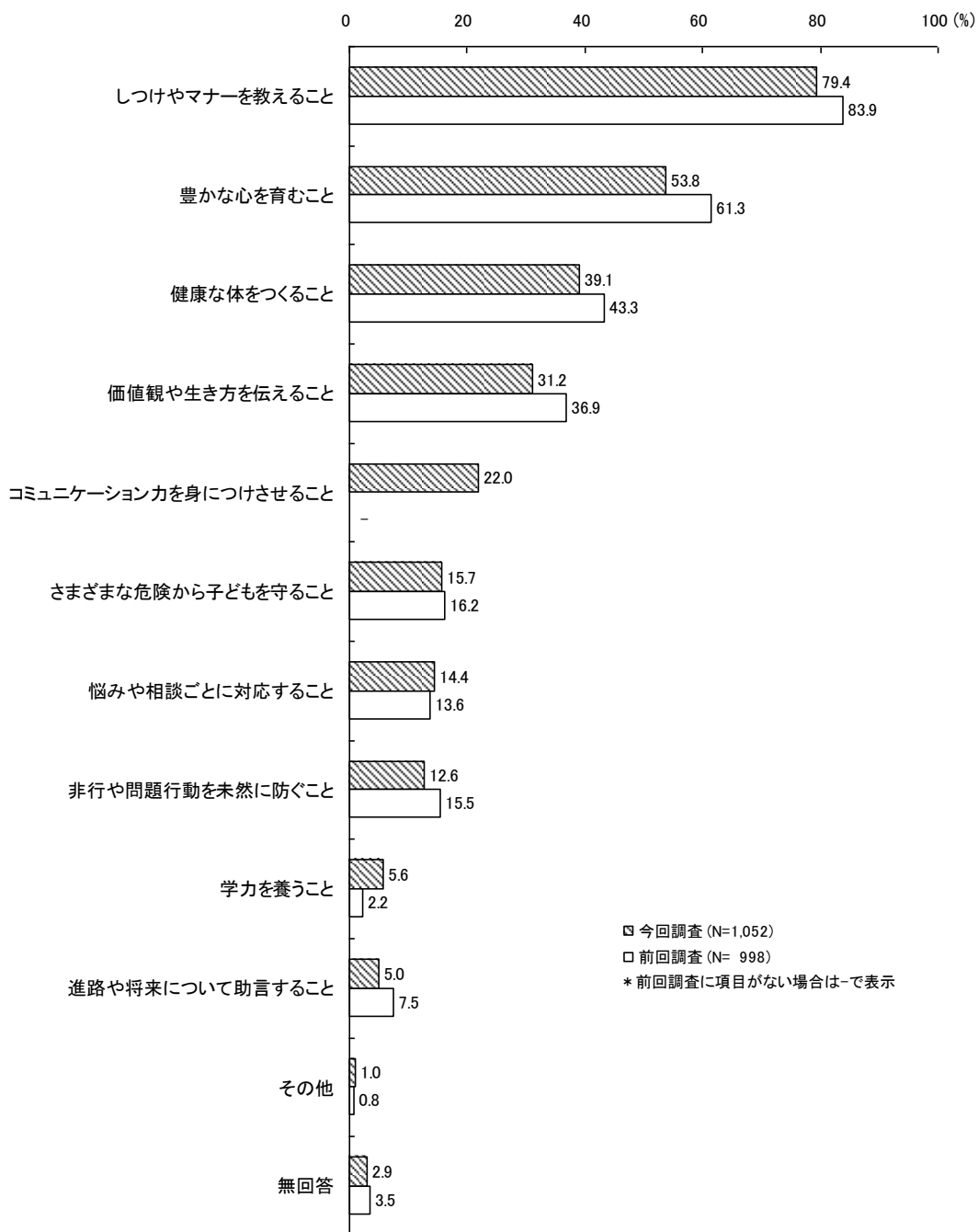
図表1-4-1-1 子どもの教育について家庭が担う役割
(全体、性別、年代別、子どもの学齢別)

(%)

	教しつけやマナーを	と豊かな心を育むこ	こ健康な体をつくる	伝価値観や生き方を	せることを身に付けさ	とらさまざまな危険か	対応するや相談ごと	未行や防ぎ行動を	学力を養うこと	て進路や将来につい	その他	無回答
全 体 (N=1,052)	79.4	53.8	39.1	31.2	22.0	15.7	14.4	12.6	5.6	5.0	1.0	2.9
性別												
男 性 (n=419)	83.1	54.4	31.7	37.7	22.2	12.6	12.2	14.8	6.4	6.9	1.2	1.4
女 性 (n=610)	77.0	54.4	44.9	26.7	22.0	18.0	15.9	11.3	5.1	3.1	0.8	3.6
年代												
20～24歳 (n=44)	65.9	59.1	27.3	20.5	36.4	20.5	25.0	6.8	13.6	6.8	0.0	2.3
25～34歳 (n=134)	78.4	54.5	36.6	30.6	24.6	15.7	22.4	12.7	4.5	3.7	1.5	0.0
35～44歳 (n=203)	78.3	60.6	38.9	32.0	24.1	19.2	17.2	6.9	6.9	4.4	1.0	1.5
45～54歳 (n=153)	78.4	52.3	46.4	34.6	25.5	13.1	11.1	13.1	3.9	3.3	0.7	2.0
55～64歳 (n=217)	84.8	55.3	36.4	37.8	20.7	13.8	11.5	12.9	4.6	4.1	0.5	1.8
65歳以上 (n=289)	79.6	48.8	41.2	26.3	16.6	15.6	10.7	17.3	5.9	6.6	1.4	5.9

子どもの教育について家庭が担う役割について、前回調査(平成17年)と比較すると、新たに追加した「コミュニケーション力を身につけさせること」は22.0%となっている。それ以外は、同様の傾向であり、大きな変化はみられない(図表1-4-1-2)。

図表1-4-1-2 子どもの教育について家庭が担う役割の推移
(全体/今回調査、前回調査)



(2) 家庭の教育力を向上させるために必要なこと

問 21 家庭の教育力の低下が指摘されています。家庭の教育力を向上させるためには、市はどのような点に力を入れるとよいと思いますか。つぎのうち、あなたのお考えにもっとも近いものの番号に3つまで○印をつけてください。

家庭の教育力を向上させるために必要なことは、「仕事と家庭の両立ができるように支援する(49.0%)」が最も高く、次いで「親子で参加できる野外活動、自然体験学習活動を実施する(39.9%)」、「親に対して子育てなどに関する講座を開催する(37.1%)」となっている。

年代別にみると、20～54歳では「仕事と家庭の両立支援」が5割以上と高くなっている。年代が若いほど「野外活動、自然体験学習の実施」が高くなる傾向がみられる。「子育て講座の開催」は55歳以上で全体より高くなっている。

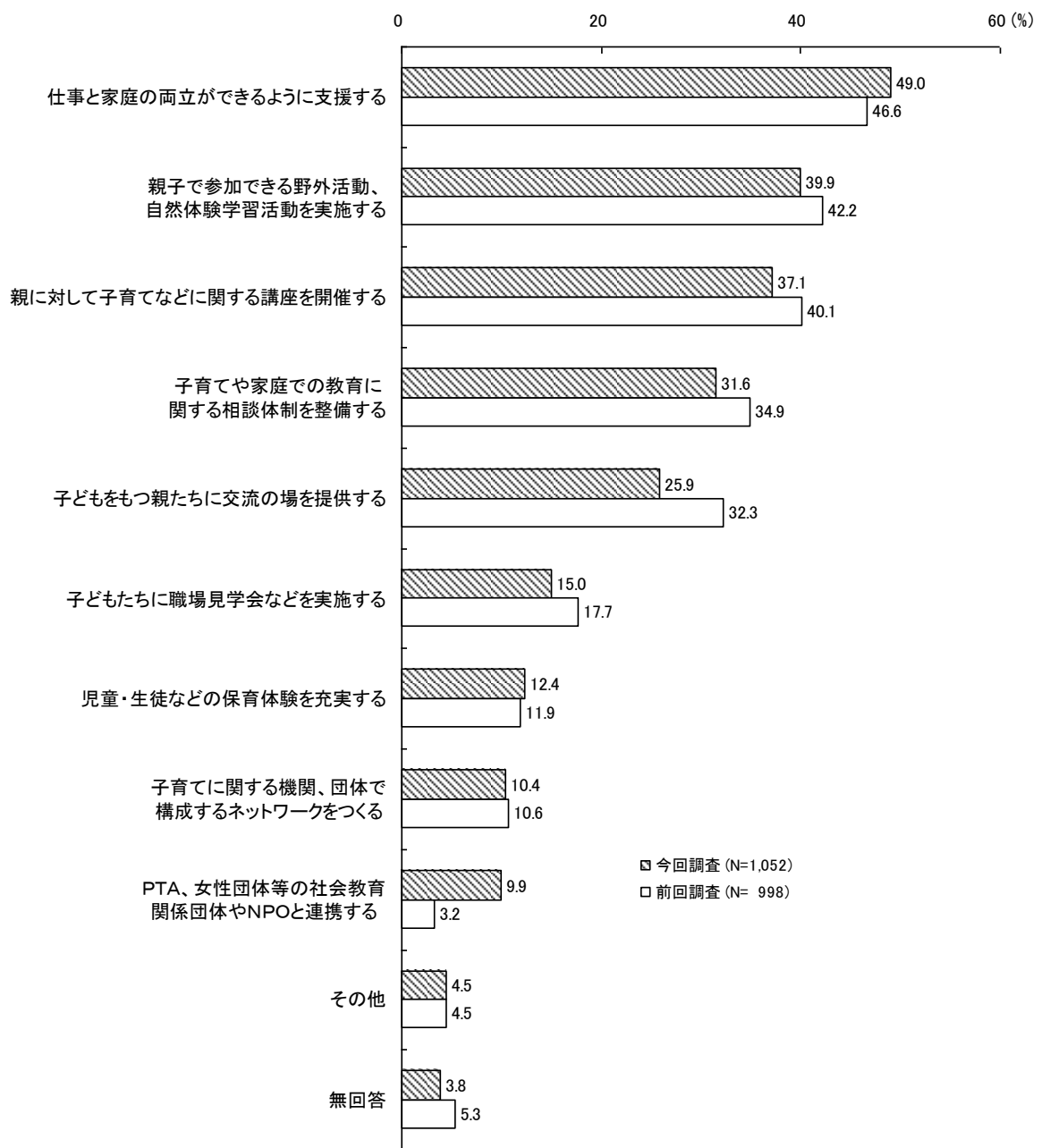
子どもの学齢別にみると、未就学児と中・高校生の親では「仕事と家庭の両立支援」が5割以上と高くなっている。未就学児の親では「野外活動、自然体験学習の実施」が全体より高くなっている。勤め人と就労・就学をしていない子どもの親では「子育て講座の開催」が高くなっている。子どもの学齢によって、家庭の教育力向上のための市への要望が異なる様子が見える(図表1-4-2-1)。

図表1-4-2-1 家庭の教育力を向上させるために必要なこと
(全体、性別、年代別、子どもの学齢別)

		仕事と家庭の両立支援	活動を実施する	親子で参加できる野外活動	親に対して講座を開催する	子育てに関する相談体制を整備する	子どもをもち親たちに交流の場を提供する	子どもたちを職場見学会などを実施する	児童・生徒などの体験を充実する	子育てに関するネット、グループをつくる	PTA、女性団体やNPOと連携する	その他	無回答
全	体 (N=1,052)	49.0	39.9	37.1	31.6	25.9	15.0	12.4	10.4	9.9	4.5	3.8	
性別	男性 (n=419)	48.7	40.8	40.3	31.5	25.8	13.8	11.5	9.5	13.4	5.5	2.4	
	女性 (n=610)	49.3	40.0	35.4	32.0	26.1	16.2	13.0	11.1	7.4	3.8	4.3	
年代	20～24歳 (n=44)	59.1	47.7	27.3	27.3	36.4	18.2	9.1	11.4	13.6	2.3	2.3	
	25～34歳 (n=134)	59.7	44.8	32.8	34.3	29.9	17.2	10.4	12.7	6.0	2.2	0.0	
	35～44歳 (n=203)	53.7	43.3	29.6	25.6	19.2	20.7	14.3	9.9	7.4	7.4	1.0	
	45～54歳 (n=153)	51.6	39.9	27.5	32.7	21.6	19.0	10.5	12.4	10.5	4.6	2.6	
	55～64歳 (n=217)	41.5	37.3	47.5	35.0	30.9	12.0	14.3	7.4	12.0	3.2	3.7	
	65歳以上 (n=289)	43.9	37.4	43.9	31.8	26.3	9.7	12.5	10.4	10.7	4.2	7.6	
子どもの学齢	未就学児 (n=119)	59.7	52.1	30.3	23.5	23.5	24.4	10.1	12.6	5.9	7.6	0.0	
	小学生 (n=93)	47.3	43.0	25.8	24.7	20.4	19.4	17.2	6.5	10.8	11.8	1.1	
	中、高校生 (n=86)	52.3	27.9	20.9	24.4	22.1	23.3	14.0	9.3	8.1	2.3	2.3	
	大学、専門学校生 (n=45)	46.7	28.9	35.6	42.2	26.7	6.7	6.7	17.8	17.8	4.4	6.7	
	勤め人 (n=164)	42.7	37.8	48.8	32.9	27.4	14.6	12.8	8.5	11.0	2.4	5.5	
	就労、就学をしていない (n=26)	34.6	38.5	50.0	38.5	19.2	3.8	23.1	15.4	15.4	0.0	0.0	

家庭の教育力を向上させるために必要なことについて、前回調査(平成17年)と比較すると、順位に変動はないが、「PTA、女性団体等の社会教育関係団体やNPOと連携する」が6.7ポイント増加している。一方、「子どもをもつ親たちに交流の場を提供する」が6.4ポイント減少している。社会教育関係団体やNPOとの連携を重要視する意見が多くなっている(図表1-4-2-2)。

図表1-4-2-2 家庭の教育力を向上させるために必要なことの推移
(全体/今回調査、前回調査)



(3) 地域の教育力を向上させるために必要なこと

問 22 青少年の凶悪犯罪やいじめ、不登校など、青少年をめぐるさまざまな問題の背景には、地域全体の教育力の低下があると指摘されています。地域の教育力を向上させるためには、市はどのような点に力を入れるとよいと思いますか。つぎのうち、あなたのお考えにもっとも近いものの番号に3つまで○印をつけてください。

地域の教育力を向上させるために必要なことについては、「学校施設を放課後や週末に開放して子どもの居場所をつくる(50.7%)」が最も高く、次いで「青少年の奉仕活動や体験活動などを充実する(41.2%)」、「体験活動やスポーツに関する地域のリーダーを養成活用する(34.4%)」となっている。

性別にみると、女性では「子どもの居場所づくり(54.8%)」が全体より高くなっている。

年代別にみると、25～54歳と65歳以上では「子どもの居場所づくり」が5割以上を占めている。20～24歳では「企業の所有する教育施設、スポーツ施設等を地域に活用する」が3割以上を占め、全体より高くなっている。55～64歳では「青少年の奉仕活動や体験活動などを充実する」が5割以上を占めている。

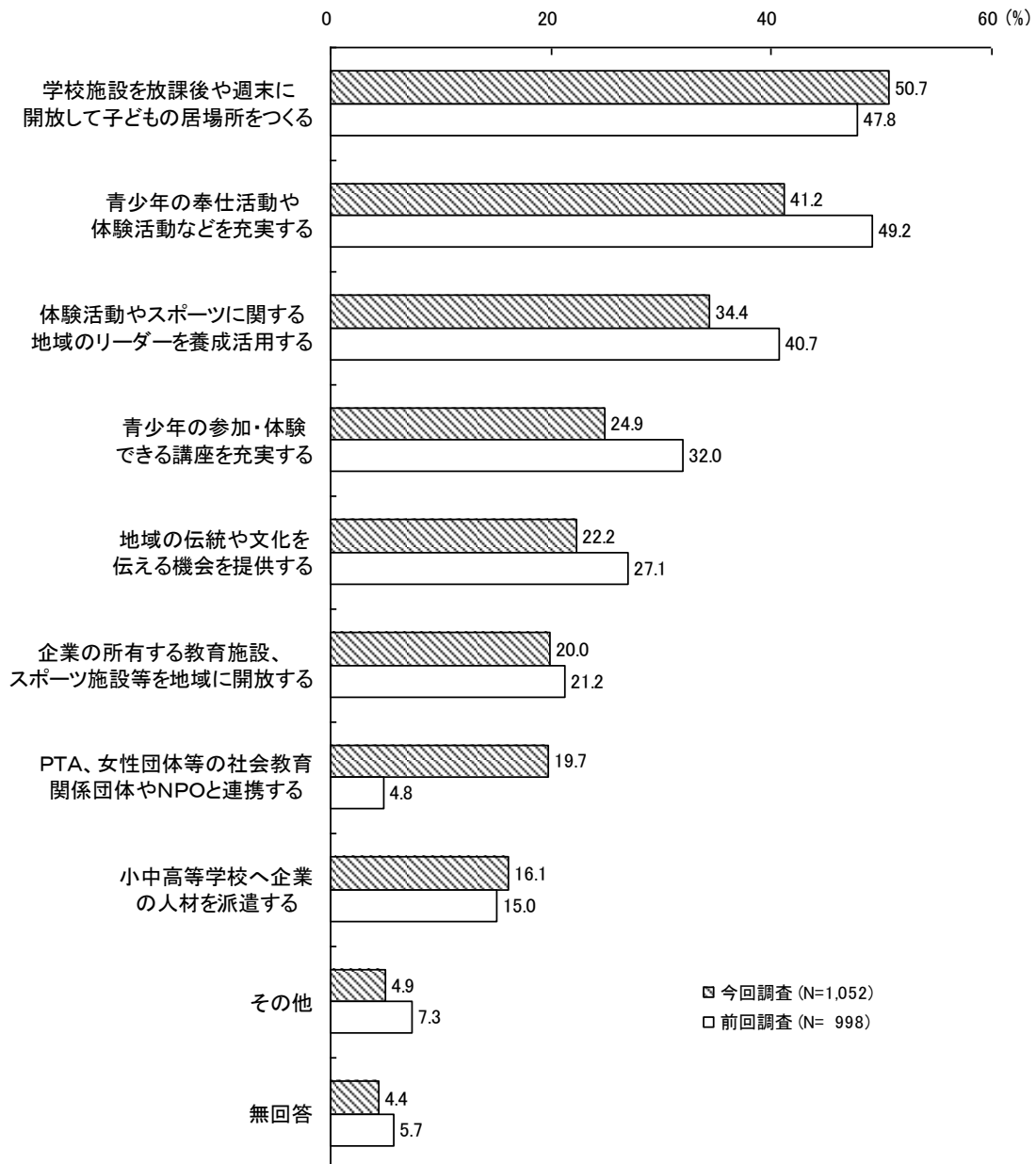
子どもの学齢別にみると、未就学児と小学生の親では「子どもの居場所づくり」が5割以上と高く、勤め人の親では「青少年の奉仕活動や体験活動などを充実する」が最も高い。大学・専門学校生の親は「小中高等学校へ企業の人材を派遣する」が高い。子どもの学齢によって、地域の教育力向上のための市への要望が異なることがうかがえる(図表1-4-3-1)。

図表1-4-3-1 地域の教育力を向上させるために必要なこと
(全体、性別、年代別、子どもの学齢別)

		(%)											
		居末学 場に校 所開施 を放設 つして てを放 る子課 ども の週	験青少 年活 動な ど奉 仕充 実す る体	を関 養育 する 活 用す る	体験 活動 やス ポ ー ツ に 関 する	き青 少 年 の 講 座 を 参 加 す る 体 験	え地 域 の 機 会 を 統 一 提 供 す る 文 化 を 伝	地設 域に スの ポ ー ツ を 施 す	P社 O会 と教 育連 携す る	P社 T A 、女 性団 体等 の	人小 材中 を高 派等 遣学 校へ 企 業 の	そ の 他	無 回 答
全	体 (N=1,052)	50.7	41.2	34.4	24.9	22.2	20.0	19.7	16.1	4.9	4.4		
性別	男 性 (n=419)	46.1	43.0	37.0	23.9	23.6	20.8	22.4	16.0	7.6	2.6		
	女 性 (n=610)	54.8	40.7	33.1	26.1	21.6	19.5	17.9	16.6	3.0	4.4		
年代	20～24歳 (n=44)	47.7	31.8	31.8	25.0	22.7	36.4	20.5	11.4	4.5	2.3		
	25～34歳 (n=134)	54.5	35.8	28.4	25.4	17.9	23.9	17.2	22.4	9.7	0.0		
	35～44歳 (n=203)	56.2	34.5	32.0	30.0	17.7	22.2	14.3	22.2	4.4	1.0		
	45～54歳 (n=153)	52.3	39.9	40.5	26.8	24.2	19.6	15.7	18.3	2.0	2.6		
	55～64歳 (n=217)	41.5	50.7	38.2	24.9	27.2	14.3	23.0	14.7	4.1	2.8		
	65歳以上 (n=289)	52.6	44.3	33.6	20.8	22.5	19.0	24.2	10.0	4.8	10.0		
子どもの学齢	未就学児 (n=119)	57.1	39.5	36.1	25.2	19.3	22.7	14.3	21.0	5.9	0.0		
	小学生 (n=93)	59.1	37.6	29.0	32.3	15.1	17.2	19.4	21.5	6.5	2.2		
	中、高校生 (n=86)	48.8	31.4	33.7	20.9	20.9	22.1	18.6	24.4	1.2	2.3		
	大学、専門学校生 (n=45)	44.4	42.2	28.9	26.7	24.4	15.6	17.8	31.1	6.7	2.2		
	勤め人 (n=164)	48.2	52.4	39.6	18.3	23.8	12.8	21.3	8.5	4.3	6.1		
	就労、就学をしていない (n=26)	38.5	34.6	42.3	26.9	38.5	15.4	30.8	19.2	7.7	0.0		

地域の教育力を向上させるために必要なことについて、前回調査(平成17年)と比較すると、「PTA、女性団体等の社会教育関係団体やNPOと連携する」が14.9ポイント増加している。社会教育関係団体やNPOとの連携を重要視する意見が多くなっている(図表1-4-3-2)。

図表1-4-3-2 地域の教育力を向上させるために必要なことの推移
(全体/今回調査、前回調査)



(4) 地域の課題を解決するために求められること

問 23 少子高齢化の進展などにより、地域社会の活力の低下が指摘されています。地域社会の活力を向上させるためには、市はどのような点に力を入れるとよいと思いますか。つぎのうち、あなたのお考えにもっとも近いものの番号に3つまで○印をつけてください。

地域の課題を解決するために求められることについては、「まちづくり、地域社会活動に住民が参加できるよう支援する（47.8%）」が最も高く、次いで「学校施設を活用した学習の場を地域住民へ提供する（37.8%）」、「生涯学習センターや公民館などにおける学習機会を充実する（37.7%）」となっている。

性別にみると、男性では「まちづくり、地域社会活動への住民参加の支援(48.9%)」が、女性では「生涯学習センターや公民館などにおける学習機会の充実(42.3%)」が全体より高くなっている。

年代別にみると、45～54歳までの年代では「まちづくり、地域社会活動への住民参加の支援」が5割以上と特に高くなっている。

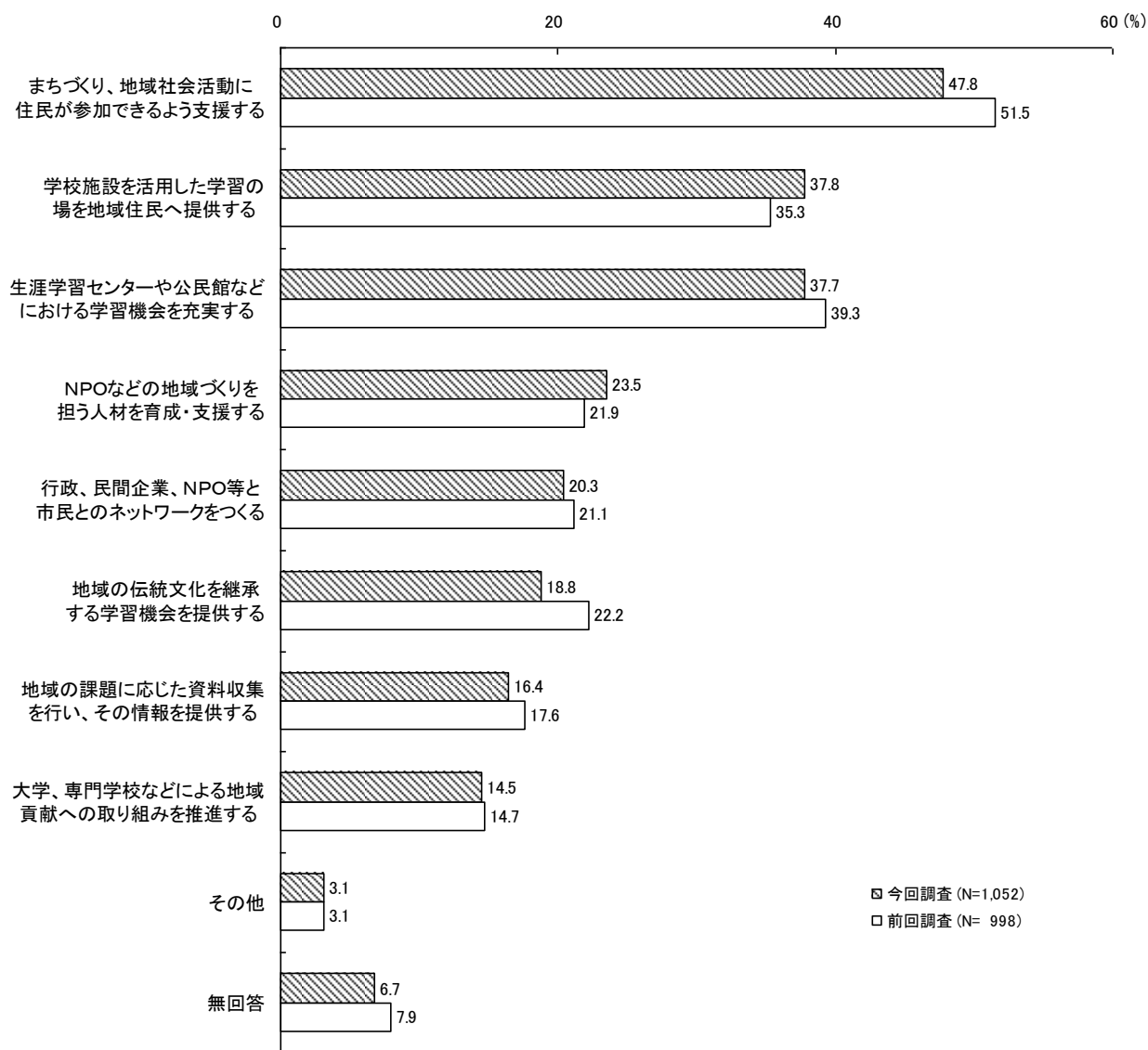
子どもの学齢別にみると、未就学児、小学生、中・高校生の親は「学校施設を活用した学習の場の提供」が4割以上を占めて全体より高くなっている（図表1-4-4-1）。

図表1-4-4-1 地域の課題を解決するために求められること
(全体、性別、年代別、子どもの学齢別)

		る活ま	供習学	機民生	支り	N	ワ	〇	行	る	地	報	地	組	よ	大	そ	無
		よ動ち	すの場	会を充	援を担	P	クと	等と	政、	す	域の	料	域	み	る	学	他	回
		うにづ	るを設	実を充	うを	な	市	民	間	学	の	集	の	を	専	学		答
		支住く	を地を	実を充	を	だ	民	間	企	習	課	を	課	推	門	校		
		援民り、	域活	実を充	を	だ	民	間	企	習	課	を	課	推	門	校		
		すが、	用し	実を充	を	だ	民	間	企	習	課	を	課	推	門	校		
		参加	た	実を充	を	だ	民	間	企	習	課	を	課	推	門	校		
		で社	提	実を充	を	だ	民	間	企	習	課	を	課	推	門	校		
		き会	学	実を充	を	だ	民	間	企	習	課	を	課	推	門	校		
全	体 (N=1,052)	47.8	37.8	37.7	23.5	20.3	18.8	16.4	14.5	3.1	6.7							
性別	男 性 (n=419)	48.9	36.3	32.2	28.2	22.4	17.9	17.2	15.8	4.5	5.5							
	女 性 (n=610)	47.5	40.0	42.3	20.2	19.0	19.5	15.7	13.4	2.3	6.7							
年代	20～24歳 (n=44)	45.5	36.4	31.8	15.9	22.7	22.7	18.2	25.0	2.3	2.3							
	25～34歳 (n=134)	47.8	39.6	36.6	21.6	18.7	17.2	15.7	15.7	6.7	1.5							
	35～44歳 (n=203)	43.8	37.9	36.5	15.3	17.7	21.7	17.7	15.8	5.4	3.9							
	45～54歳 (n=153)	54.9	39.9	39.9	19.6	22.2	13.1	19.0	18.3	1.3	5.2							
	55～64歳 (n=217)	49.8	34.1	39.2	30.4	23.5	22.1	16.1	12.0	2.3	6.0							
	65歳以上 (n=289)	46.4	40.1	39.4	27.7	19.7	18.0	14.2	11.1	1.7	12.5							
子どもの学齢	未就学児 (n=119)	52.1	46.2	37.0	17.6	17.6	17.6	16.0	14.3	5.9	1.7							
	小学生 (n=93)	44.1	40.9	38.7	16.1	15.1	19.4	20.4	15.1	4.3	3.2							
	中・高校生 (n=86)	43.0	40.7	32.6	17.4	18.6	18.6	15.1	19.8	3.5	8.1							
	大学、専門学校生 (n=45)	46.7	33.3	42.2	31.1	31.1	15.6	20.0	13.3	0.0	8.9							
	勤め人 (n=164)	53.7	33.5	39.6	25.6	20.7	17.7	16.5	9.8	3.7	8.5							
	就労、就学をしていない (n=26)	76.9	30.8	30.8	38.5	30.8	15.4	19.2	11.5	0.0	0.0							

地域の課題を解決するために求められることについて、前回調査(平成17年)と比較すると、順位に若干の変動はあるが、大きな変化はなく、「まちづくり、地域社会活動に住民が参加できるよう支援する」、「学校施設を活用した学習の場を地域住民へ提供する」、「生涯学習センターや公民館などにおける学習機会を充実する」が上位3項目となっている(図表1-4-4-2)。

図表1-4-4-2 地域の課題を解決するために求められることの推移
(全体/今回調査、前回調査)



(5) 学校、家庭、地域、企業等の連携協力を推進するために求められること

問 24 社会全体の教育力を向上するためには、学校、家庭及び地域住民、企業等の連携協力が大切だといわれています。連携協力を推進するためには、市はどのような点に力を入れるとよいと思いますか。つぎのうち、あなたのお考えにもっとも近いものの番号に3つまで○印をつけてください。

学校、家庭、地域、企業等の連携協力を推進するために求められることについては、「子どもの安全を地域住民と学校で守る（55.6%）」が最も高く、次いで「放課後や週末の子どもの居場所づくりを地域住民が協力する（47.3%）」、「学校の運営を地域住民が支援する（28.2%）」となっている。

性別にみると、男性では「学校の運営を地域住民が支援する」が女性より高くなっている。

年代別にみると、いずれの年代においても「子どもの安全を地域住民と学校で守る」、「放課後や週末の子どもの居場所づくりを地域住民が協力する」が高くなっており、市へ求めている施策であることがうかがえる。

子どもの学齢別にみると、全ての学齢で「子どもの安全を地域住民と学校で守る」が最も高く、未就学児の親では7割以上と高くなっている。就労・就学をしていない子どもの親では「学校の運営を地域住民が支援する」、「社会教育施設で地域住民がボランティア活動する」が全体より高くなっている（図表1-4-5）。

図表1-4-5 学校、家庭、地域、企業等の連携協力を推進するために求められること

(全体、性別、年代別、子どもの学齢別)

(%)

	と子ども 学校で守る 安全を 地域住民	が居 場所 協力す る	放課後 や週末 の地 域住 民の	支 援す る	学 校の 運 営を 地 域 住 民が	P職 場 など が活 動に 力す る	子 ども のキ ャリ ア教 育や	が社 会教 育施 設で 活 動す る民	る人 材派 遣、 社会 教育 施設 提供 をさ す	る貢 献活 動に 学 習活 動が 配 慮す る	雇 用者 の学 習活 動、 地 域	そ の 他	無 回 答
全 体 (N=1,052)	55.6	47.3	28.2	24.7	22.0	19.6	19.2	3.1	5.6				
性 別													
男 性 (n=419)	53.5	48.2	34.4	24.8	23.4	18.1	19.6	5.0	3.6				
女 性 (n=610)	57.9	47.9	24.4	24.9	21.3	20.5	18.9	1.8	6.1				
年 代													
20～24歳 (n=44)	72.7	43.2	25.0	27.3	29.5	15.9	25.0	0.0	0.0				
25～34歳 (n=134)	59.7	43.3	21.6	31.3	14.9	20.1	24.6	3.0	0.7				
35～44歳 (n=203)	58.1	45.3	23.6	28.6	14.8	22.7	22.2	3.9	3.4				
45～54歳 (n=153)	49.0	42.5	33.3	29.4	23.5	26.1	21.6	2.0	2.6				
55～64歳 (n=217)	59.0	47.0	30.4	24.0	25.3	18.4	17.5	3.7	4.6				
65歳以上 (n=289)	51.9	56.1	31.1	17.0	26.6	15.6	13.1	3.1	11.4				
子 ども の 学 齢													
未 就 学 児 (n=119)	73.9	53.8	23.5	31.1	12.6	17.6	21.0	2.5	0.8				
小 学 生 (n=93)	55.9	47.3	20.4	31.2	8.6	29.0	14.0	5.4	1.1				
中、高 校生 (n=86)	47.7	34.9	34.9	30.2	19.8	23.3	18.6	2.3	4.7				
大 学、 専門 学校 生 (n=45)	51.1	40.0	37.8	35.6	28.9	33.3	15.6	0.0	4.4				
勤 め 人 (n=164)	52.4	47.6	32.3	19.5	29.9	15.2	17.1	3.0	6.7				
就 労、 就学 をして いない (n=26)	65.4	50.0	38.5	11.5	42.3	19.2	23.1	0.0	0.0				